

(仮称)福山みらい創造ビジョン
(案)

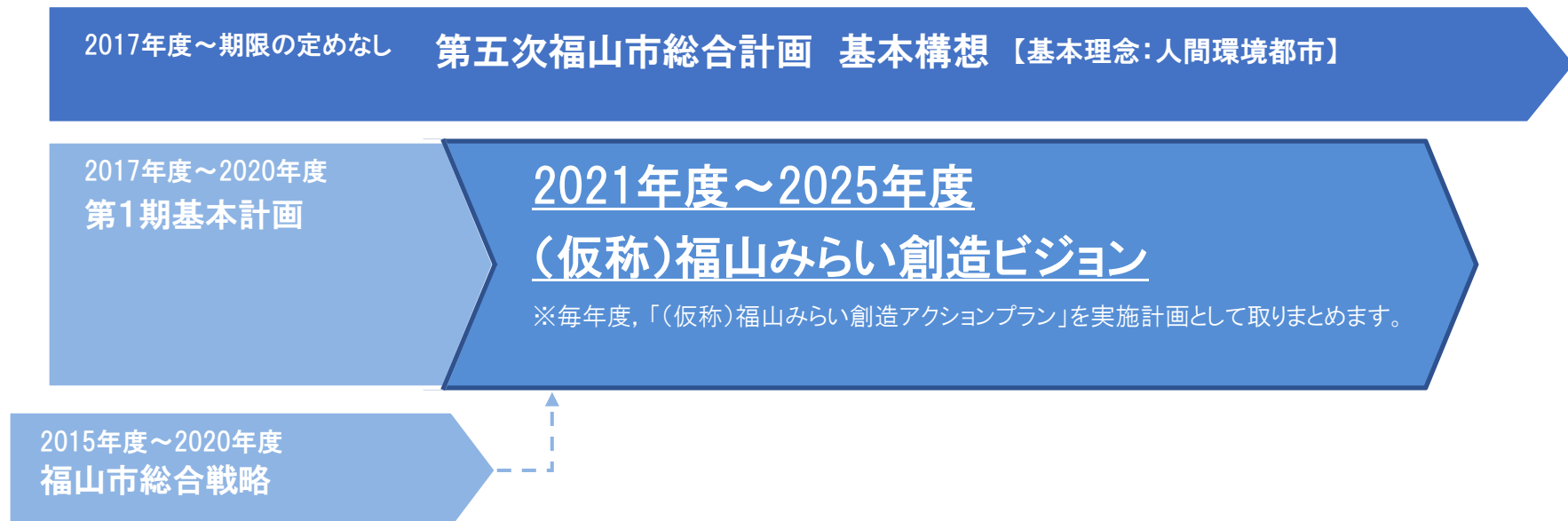
福山市

目次

1. 趣旨と期間	1
2. 社会情勢	2
3. 市民ニーズ(市民の望む福山市の姿)	10
4. 2025年度までにめざす福山市の姿	11
5. 施策体系(新5つの挑戦)	14
6. 市政運営方針(ビジョンの推進に向けて)	15
7. 2025年度までに達成すべき指標	17
8. 新5つの挑戦の推進	19
挑戦1 福山駅周辺の再生加速とグローバル都市の創造	
挑戦2 希望の子育てと寛容で健やかな社会の実現	
挑戦3 人や企業が安心・安全に活躍できる都市環境の構築	
挑戦4 新たな価値を創出する人材育成と個性光る地域振興	
挑戦5 歴史・文化とスポーツによる新たな体験価値の創出	

1. 趣旨と期間

- 福山市の基本理念は、「人間環境都市」です。この基本理念の下、2017年度から「活力と魅力に満ちた輝くまち」の実現を目標とした、第1期基本計画を推進してきました。
- 長期化する新型コロナウイルス感染症の影響により、市民生活や経済活動は厳しい状況に置かれています。一日も早くコロナ禍を乗り越え、コロナの時代の「新たな日常」を構築することが、市民生活の「安心」を取り戻し、誰もが未来に「希望」が持てる都市づくりに向けた第一歩となります。
- このため、「(仮称)福山みらい創造ビジョン」を策定します。これまでの5つの挑戦による市政への変化を確かな成果につなげるとともに、ポストコロナを見据えた都市づくりを進めます。
- なお、本ビジョンは、「福山市総合計画」と「福山市総合戦略」を一本化したものです。

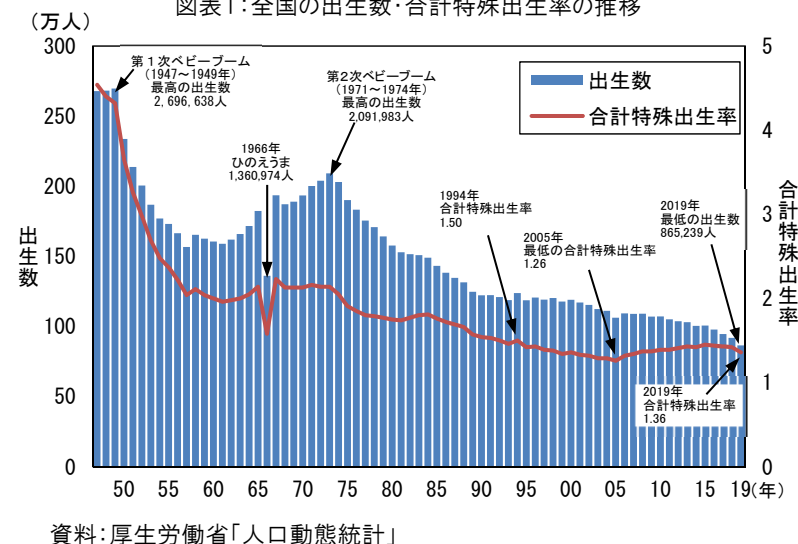


2. 社会情勢

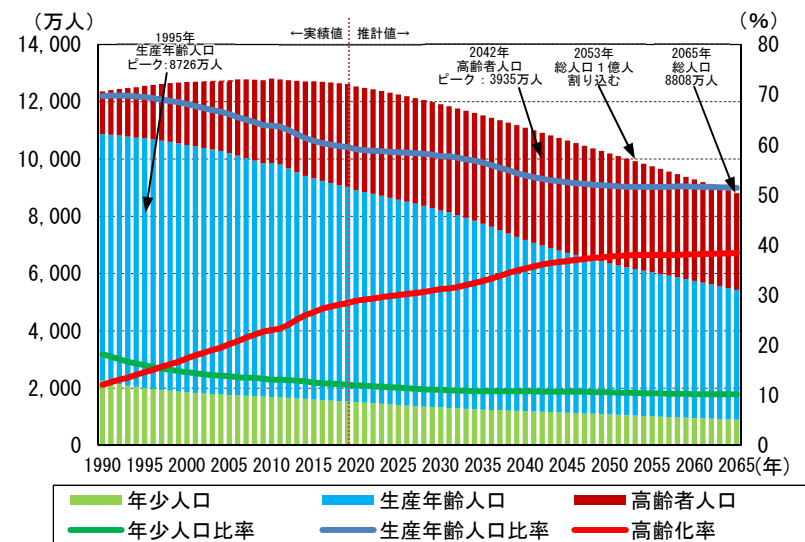
(1) 人口減少・少子高齢化の進行

- 日本の総人口は、2040年には1億1,092万人となり、その後も減少を続けると予測されています。
- 生産年齢人口(15～64歳)は2040年に5,978万人まで減少し、ピーク時(1995年)の68.5%となります。
- 高齢者人口(65歳以上)は2042年にピークを迎え、その後は減少に転じ、全年齢階層で人口減少が進みます。
- 2040年代までに、生産年齢人口(現役世代)と高齢者人口の数が急速に近づき、少ない現役世代で高齢者を支える社会が到来します。さらに、85歳以上の人口は高齢者人口の26.0%を占めるまで増加します。
- 人口減少・少子高齢化の進行は、地域の交通や医療・福祉、学校教育の在り方などの様々な分野に影響を及ぼすほか、働き手の減少により経済規模が縮小し、一人当たりの国民所得も低下させるおそれがあります。
- 人口減少に歯止めをかけることは困難であり、人口減少を和らげつつ、人口減少社会に対応した都市づくりを進める必要があります。

図表1: 全国の出生数・合計特殊出生率の推移



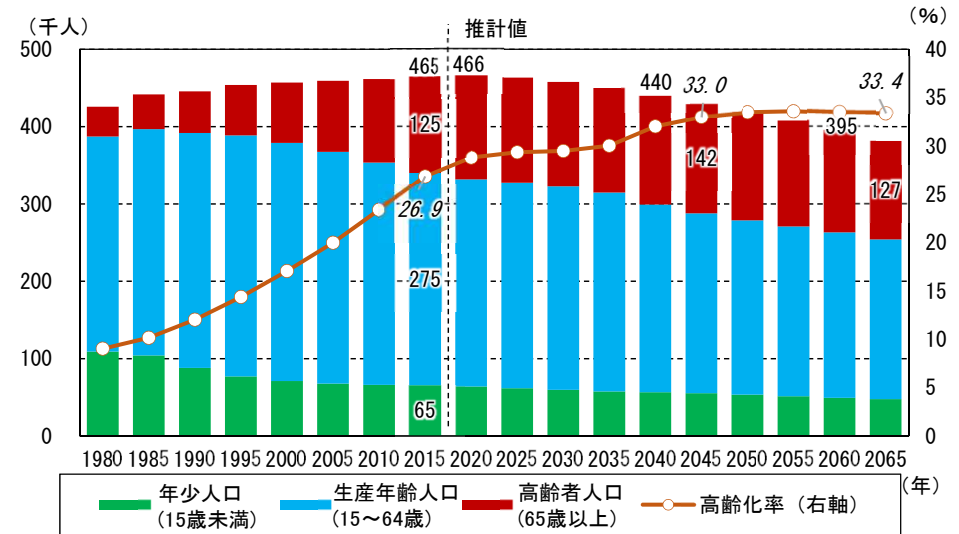
図表2: 全国の人口の推移と長期的な見通し



【福山市の現状や方向性】

- 福山市の人口は、2015年の国勢調査では464,811人です。
- 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、総人口は、2020年をピークに減少に転じ、2040年には44万人に、2060年には40万人を下回り、39.5万人になると予測されています。
- 年齢3区分別の推計を見ると、年少人口・生産年齢人口は減少を続けます。高齢者人口は2045年にピークを迎え、その後は減少に転じると予測されています。なお、高齢化率については、2045年に33.0%となり、その後も高い水準のまま推移します。医療費の増大や認知症患者の増加も予測されています。
- これまでの合計特殊出生率の推移を見ると、継続して全国や広島県の平均を上回っています。また、経年で見ると、2005年から2011年までは大きく上昇し、その後、年次による変化はあるものの、1.6～1.7台で推移しています。

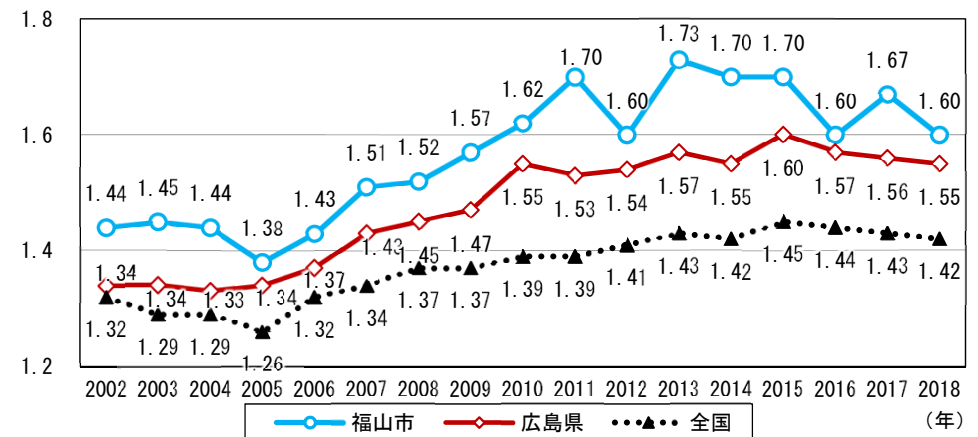
図表3: 福山市の将来人口推計



資料: 総務省「国勢調査」, 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (平成30(2018)年推計)」

※ 2015年までは国勢調査の実績値(年齢3区分人口は年齢不詳を按分した数値) 2020年以降は推計値

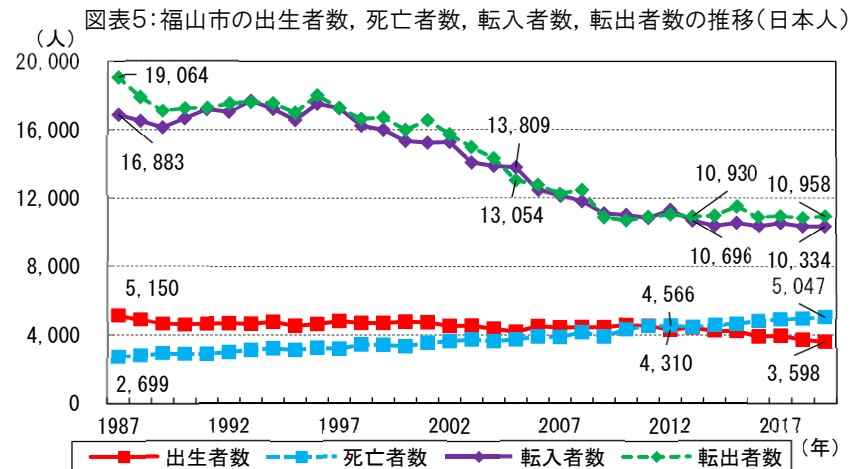
図表4: 福山市の合計特殊出生率の推移



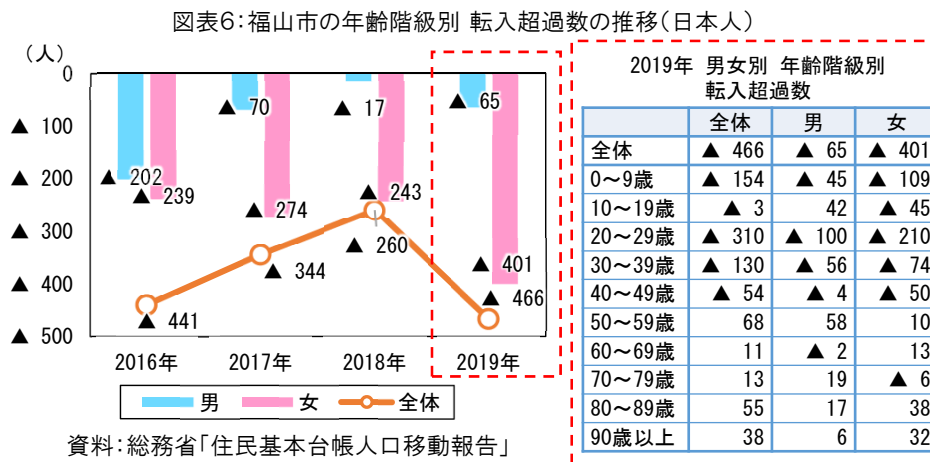
資料: 厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」

- 2012年以降は死亡者数が出生者数を上回る自然減が、2013年以降は転出者が転入者を上回る社会減が続いています。
- 社会動態については、男性よりも女性の転出超過数が大きくなっています。年齢別に見ると、20歳代の転出超過が最も大きく、女性は40歳代までの全ての年代で転出超過傾向にあります。
- 外国人住民は年々増加しており、2019年には1万人を突破しています。
- 人口減少が進むことで、公共交通の利用者が減少し、維持・確保が厳しくなるなど、生活利便性が低下することが考えられます。また、地域の担い手が減り、コミュニティの維持が困難になることが考えられます。
- 人口減少を抑制するため、子育て共働き女性などの政策ターゲット(ペルソナ※)の満足度向上につながる施策の強化に取り組んでいます。
- 若い世代、特に女性の地元定着の促進や都市の魅力向上による新たな人の流れの創出などの取組を強化する必要があります。
- また、人口減少社会にあっても、生活に必要なサービスを維持・提供していくためには、多極ネットワーク型コンパクトシティの形成に取り組む必要があります。

※ 新たな人口減少対策アクションプランにおいて、進学・就職や結婚・出産など人生の転機ごとに「高3進学女子」「子育て共働き女性」などの9つの人物像を設定。

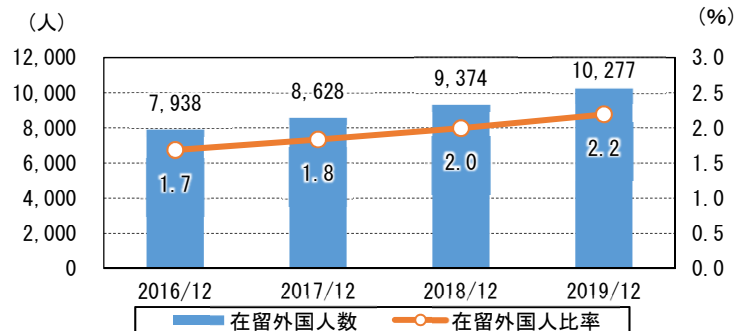


資料: 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯」



資料: 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

図表7: 福山市の在留外国人数と全人口に対する在留外国人比率の推移

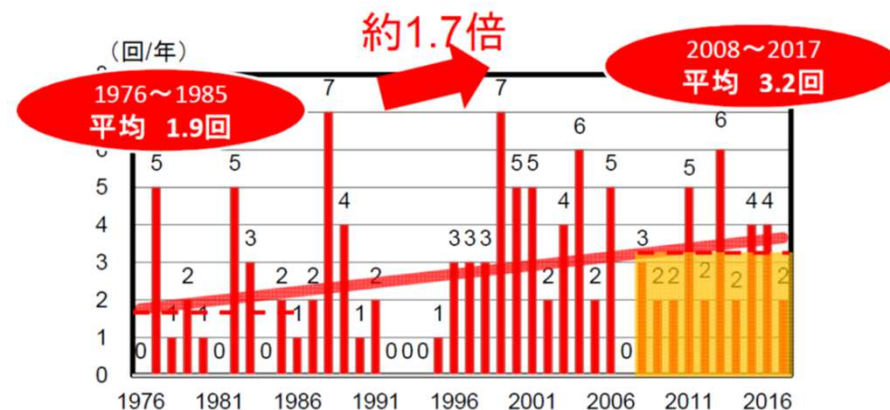


資料: 福山市資料

(2) 自然災害や感染症のリスクの増大

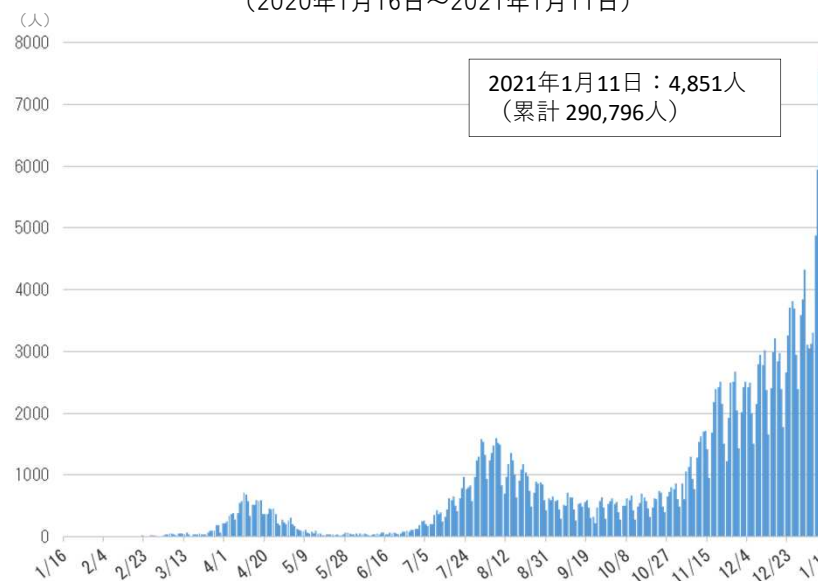
- 近年、1時間に100ミリ以上の豪雨が増加するなど水害や土砂災害が頻発化・激甚化しています。また、南海トラフ地震については、今後30年以内に70%～80%の確率で発生することが予測されるなど、大規模地震災害も切迫しています。
- 新型コロナウイルス感染症については、2020年1月15日に国内で最初の感染者が確認されて以降、全国に感染が拡大しました。当初は早期終息をめざしていましたが、1年を経過した今も終息に向けた局面に入っていない状況です。
- 国においては、自然災害や感染症のリスクに備えるとともに、国民の生命や生活、雇用、事業をしっかりと守り抜くことを最重要の責務として、国民が安全・安心を実感できる社会の実現をめざしています。
- また、今後の成長戦略の柱に「経済と環境の好循環」を新たに掲げ、豪雨による水害や土砂災害の激甚化に影響をもたらしている可能性のある気候変動への対策として、2050年までに、温室効果ガスの排出をゼロにする脱炭素社会・カーボンニュートラルの実現をめざしています。

図表8: 1時間降水量100ミリ以上の年間発生回数(1000地点当たり)



資料: 国土交通省「異常豪雨の頻発化に備えたダムの洪水調節機能と情報の充実に向けて」

図表9: 新型コロナウイルス感染症 PCR検査陽性者数 (2020年1月16日~2021年1月11日)

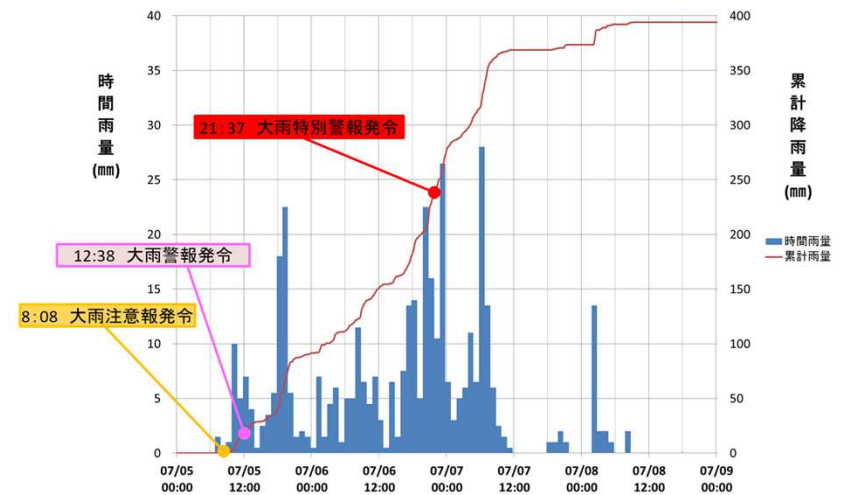


資料: 厚生労働省ホームページ

【福山市の現状や方向性】

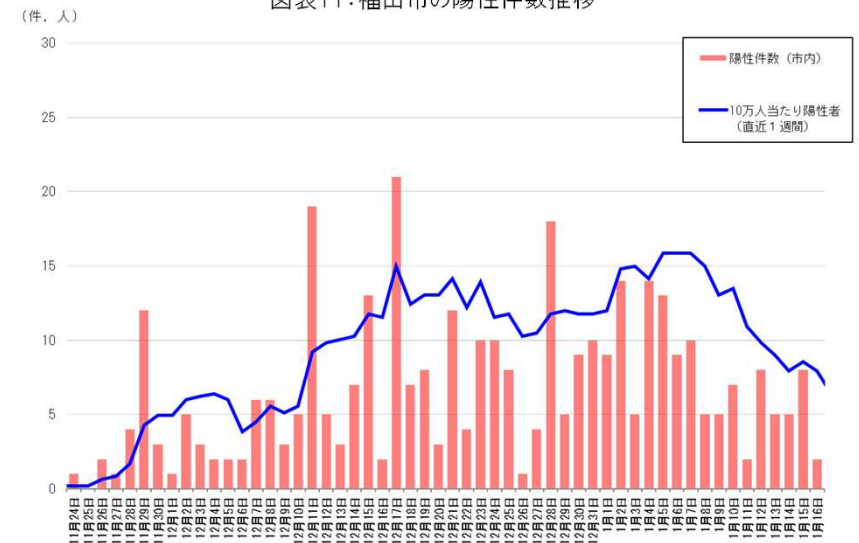
- 平成30年7月豪雨では、福山市域で約2,000haが浸水するなど、低平地における広範囲な浸水被害の発生のほか、多数ある農業用ため池については堤体の決壊や損壊などによる下流への被害が発生しました。また、地震については、臨海部の埋立地や干拓地において軟弱地盤の地域も見られ、地震時の揺れが増大する可能性があります。
- 本市における新型コロナウイルス感染症の状況については、患者数が2021年1月9日に400例を超えるなど感染拡大が続いており、収束の見込みが立たない状況です。
- こうしたことから、災害対策については、二度と床上浸水被害を起こさないよう、国・県と連携した抜本的な浸水対策を概ね2023年度までに集中実施することやため池の安全対策に注力していくとともに、南海トラフ地震などの大規模地震のリスクに備えた強靱な地域づくりも進めていく必要があります。加えて、災害リスクの低減にもつながる地球温暖化対策として、福山未来エナジー株式会社による再生可能エネルギーの地産地消の推進など、脱炭素社会の実現に向けた取組も加速させる必要があります。
- 新型コロナウイルス感染症については、市民の命と健康を守るため、感染拡大防止の強化と医療提供体制の確保に引き続き取り組むとともに、市民生活や雇用の維持と事業の継続、そして経済活動の回復へとつなげていく必要があります。

図表10:福山市域における平成30年7月豪雨の雨量



資料:福山市域における浸水対策協議会「福山市域における浸水対策とりまとめ」

図表11:福山市の陽性件数推移



資料:福山市資料

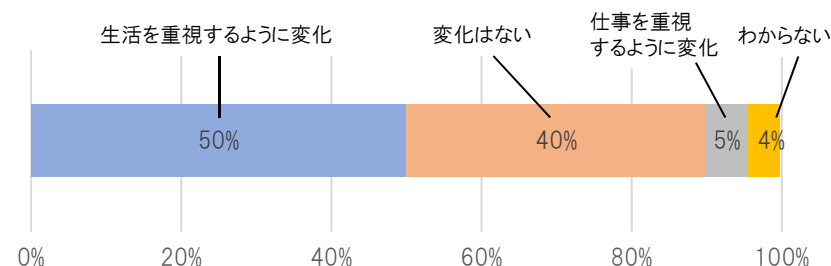
(3) 新型コロナウイルス感染拡大による社会環境の変化

① ポストコロナにおける「新たな日常」の実現

- 新型コロナウイルスの感染拡大により、行政分野を始め、社会全体でデジタル化の遅れが明らかになるとともに、東京への国・企業の中核機能の集中による危機管理・社会経済活動上のリスクが改めて浮き彫りになりました。
- また、地方への移住の関心の高まりやテレワーク等の新たな働き方など、人々の行動・意識・価値観にまで多方面に波及しており、こうした変化を社会変革の契機と捉え、「新たな日常」を早急実現していく必要があります。
- 「新たな日常」の実現に向けては、利用者の価値観を重視するUX(User Experienceの略:ユーザー体験)の考え方を取り入れながら、社会全体のデジタル化を加速していくとともに、場所に捉われない生活・働き方を定着させていく中で、地方への人の流れの創出による東京一極集中型から多核連携型※の国づくりをめざしています。

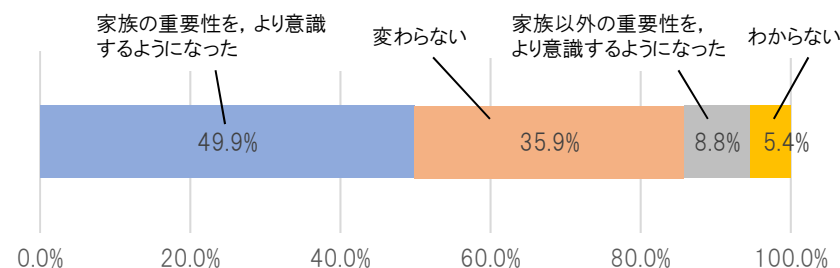
※ 多核連携型とは、地域の核への集約を図りながら地域内・地域外をネットワークでつなぐこと。

図表12: 仕事と生活のどちらを重視したいかという意識の変化(就業者)



資料: 内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」

図表13: 家族の重要性に関する意識の変化



資料: 内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」

【福山市の現状や方向性】

- 「新たな日常」の実現に向けて、介護施設などにおける面会等の非接触型サービスの推進のほか、テイクアウト・デリバリー事業への参入など新たなビジネスモデルへ転換できるよう支援してきました。
- しかしながら、「新たな日常」における働き方の最たる例であるテレワークについては、中小企業を中心に導入の動きが広がっていないため、社会や市民ニーズに合ったデジタル化を推進する必要があります。

- 一方で、大都市圏ではテレワークの活用を通じて、場所にとらわれず仕事ができるという認識が広まったことをきっかけに、地方移住の可能性が広がっています。この機を捉え、地方への新たな人の流れを創出するため、地方への分散による“多極集中”の受け皿となれるよう都市環境を充実させる必要があります。

② デジタル技術の進展

- デジタル技術は、人口減少・少子高齢化社会における様々な社会的課題を解決し、より便利で豊かな生活を体現するとともに、企業の生産性を高め、持続的な経済成長の実現に大きく貢献するものとして期待されています。
- しかしながら、社会課題の解決に資するデジタル技術の社会実装が進んでいないこと、デジタル専門人材の不足など、コロナ禍を通じてデジタル化に向けた課題が明らかになりました。
- 新型コロナウイルス感染症の影響による人々の意識・行動の変化などを社会変革の契機と捉え、社会全体のデジタルトランスフォーメーション(DX)を加速するため、デジタル庁(仮称)などの体制整備が進められています。

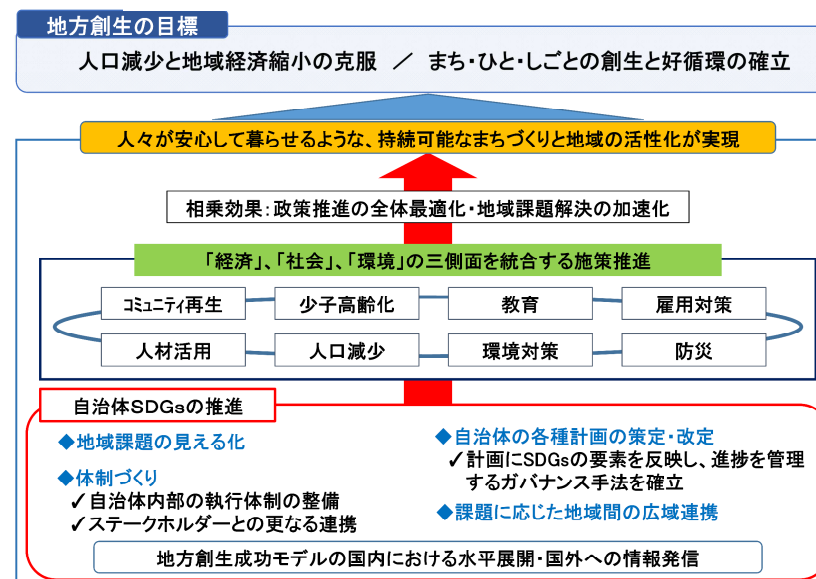
【福山市の現状や方向性】

- デジタル社会の実現こそが、交通、医療など人口減少社会において地方に共通する課題の解決に資するものであり、本市ではこれまで「まるごと実験都市ふくやま」を掲げ、実証実験の積極的な受入れなどに取り組んできました。
- しかしながら、本市においてもデジタル専門人材の不足や中小企業にデジタル技術導入の意識が低いことに加え、世代間でのデジタル格差の出現などの課題が懸念されます。
- このため、「ふくやまICT戦略」に基づき、コロナ禍で顕在化した課題も踏まえる中で、産業・地域・行政のデジタル化の取組を加速し、市内企業の活力向上、地域課題の解決、そして行政サービスの質の向上につなげていく必要があります。

③ SDGs推進の機運の高まり

- SDGs(Sustainable Development Goalsの略:持続可能な開発目標)が掲げる「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現は、コロナ禍によって改めて注目されています。
- SDGsは、2030年に向けた世界の羅針盤であり、日本においては、社会・経済・環境の三側面を統合する施策を推進することで、持続可能なまちづくりと地域活性化の実現をめざしています。国や自治体、企業、団体、市民などがそれぞれの立場における役割を果たす必要があります。

図表14: 地方創生における自治体SDGs推進の意義



資料: 内閣府地方創生推進事務局「地方創生に向けた自治体SDGs推進事業について(平成30年1月)」

【福山市の現状や方向性】

- 戦後60年以上にわたり、市民が主体となって培ってきたばらのまちづくりは、SDGsの理念にも沿った本市の代表的な取組です。ばらのまちづくりを通じてこれまで引き継がれてきたローズマインド(思いやり・優しさ・助け合いの心)を市民文化として根付かせ、世界に誇れる持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいます。
- 誰一人取り残されることのない包摂的な社会を実現するため、コロナ禍で懸念される格差拡大の防止を図るとともに、地域において人の交流が活発で、互いに支え合い、助け合う地域共生社会の構築に取り組みます。

3. 市民ニーズ(市民の望む福山市の姿)

- 2020年3月に実施した行政サービスなどに対する市民意識調査(18歳以上が調査対象)では、全ての年代で「災害に強く、安心・安全に暮らせるまち」が「市民の望む福山市の姿」の上位に挙げられています。
- 転出超過の傾向が続く30歳代以下では、「中心市街地がにぎわい、多くの人が集うまち」や「子育て環境が充実し、希望の子育てが実現できるまち」を望む割合が、他の年代と比べて高くなっています。

図表15:年代別に見た市民の望む福山市の姿

	第1位	第2位	第3位
20歳代以下	<u>中心市街地がにぎわい</u> 、多くの人が集うまち	<u>災害に強く</u> 、安心・安全に暮らせるまち	子育て環境が充実し、 <u>希望の子育てが実現</u> できるまち
30歳代	子育て環境が充実し、 <u>希望の子育てが実現</u> できるまち	<u>災害に強く</u> 、安心・安全に暮らせるまち	<u>中心市街地がにぎわい</u> 、多くの人が集うまち
40歳代	<u>災害に強く</u> 、安心・安全に暮らせるまち	高齢者や障がい者など、 <u>すべての人が健やかに</u> 、いきいきと暮らせるまち	<u>中心市街地がにぎわい</u> 、多くの人が集うまち
50歳代	<u>災害に強く</u> 、安心・安全に暮らせるまち	高齢者や障がい者など、 <u>すべての人が健やかに</u> 、いきいきと暮らせるまち	暮らしや経済活動を支える <u>公共交通や道路</u> などが整備され、快適に暮らせるまち
60歳代	<u>災害に強く</u> 、安心・安全に暮らせるまち	高齢者や障がい者など、 <u>すべての人が健やかに</u> 、いきいきと暮らせるまち	暮らしや経済活動を支える <u>公共交通や道路</u> などが整備され、快適に暮らせるまち
70歳代	<u>災害に強く</u> 、安心・安全に暮らせるまち	高齢者や障がい者など、 <u>すべての人が健やかに</u> 、いきいきと暮らせるまち	暮らしや経済活動を支える <u>公共交通や道路</u> などが整備され、快適に暮らせるまち
80歳以上	高齢者や障がい者など、 <u>すべての人が健やかに</u> 、いきいきと暮らせるまち	<u>災害に強く</u> 、安心・安全に暮らせるまち	暮らしや経済活動を支える <u>公共交通や道路</u> などが整備され、快適に暮らせるまち

4. 2025年度までにめざす福山市の姿

(1) めざす姿

**「新分散型社会(仮)」の下で、
市民一人一人の安心な暮らしと希望が実現する都市**

をめざします。

■ 「新分散型社会(仮)」とは

- 「新分散型社会(仮)」とは、新たな日常が構築されるとともに、大都市圏から地方都市への人の流れの定着に加え、市民一人一人が自由度の高い働き方・暮らし方を選択できるライフスタイルも含めた包括的な“分散型の社会”です。この新分散型社会の実現には、東京や一部の政令市から地方都市への適度な分散と、本市の都市核の中心である福山駅前から周辺地域への適度な分散という国土レベルと市域レベルの両面において、“少極集中”から“多極集中”を促す都市構造への転換が欠かせません。
- また、新たな日常とは、非対面・非接触のサービスを定着させていくことだけでなく、人と人とのつながりや支え合いの重視といった個人の価値観の変化にも対応し、企業活動や日常生活のパラダイムシフト(物の見方や捉え方の劇的な変化)を促進することで、時間・場所に捉われず柔軟に生活できる“日常”です。
- こうした“日常”の実現に向け、地方への適度な“分散”の受け皿となれるよう、備後圏域の玄関口でもある福山駅周辺の拠点性を高めます。また、個性豊かな各地域の拠点に人の流れを適度に“分散”していくことができるよう、市民が誇りを持って生活し、様々なことにチャレンジできる活力と、地域外の人を訪れてみたい、関わってみたい、住んでみたいと思える魅力ある地域づくりを進めます。
- そして、この新分散型社会の下、コロナ以前の“日常”には立ち戻らないといった強い決意を持ち、市民一人一人の安心な暮らしと希望が実現する都市をめざします。

■ 「安心」と「希望」のイメージ

市民一人一人の安心な暮らしと希望が実現する都市のイメージは次のとおりです。

【“安心”とは】

- 頻発化・激甚化する自然災害や感染症に対する備えが万全である
- いつまでも健康で生き生きと暮らせる
- 必要なセーフティネットが提供され、一人一人の不安に寄り添っている
- 安定した雇用が維持されている

【“希望”とは】

- 市域全体が活性化し、新たな人の流れが生まれる魅力であふれている
- 子どもや子育て世帯が笑顔で楽しく過ごせる
- 伝統ある産業や技術を守りつつも、付加価値生産性が高く、魅力的な仕事が生まれている
- グリーン社会に向け、経済と環境の好循環が生まれている
- 文化やスポーツにより、活力と潤いのある豊かな暮らしが実現できる

(2) めざす姿を実現するための柱となる項目(重点テーマ)

① 新型コロナウイルス感染症対策の強化

市民生活に安心を取り戻すとともに、社会経済活動の再開に向け、新型コロナウイルス感染症対策を徹底します。同時に、新型コロナウイルスなどの感染症にも対応できる中長期的な医療提供体制の確保に県と連携して取り組みます。また、ポストコロナにおける活力ある市民生活と企業活動に向けて取り組みます。

② 新たな日常の実現

コロナ禍で変化した生活スタイルへの対応のみならず、協調・連帯や持続可能性の重視といった価値観の変化にも適応した「新たな日常」の実現に取り組みます。市民一人一人の不安に寄り添い、自らが希望するライフスタイルを描いていくことができるよう、自由度が高く、選択できる社会に向けて取り組みます。

③ デジタル化の推進

「新たな日常」構築の原動力となる社会全体のデジタル化を推進し、企業の生産性向上を始め、公共交通の衰退など地域共通の課題解決や行政サービスの質の向上につなげます。

④ ポストコロナを見据えた都市魅力の向上

東京一極集中から地方への新たな人の流れが生まれるよう、備後圏域の玄関口でもある福山駅前の拠点性を高めるとともに、新たに策定する地域戦略に基づき、個性豊かな地域づくりを進めます。また、頻発化・激甚化する自然災害などのリスクに備えた強靱な都市づくりも進めます。

⑤ 人口減少・少子高齢化への対応

少子化の進行や若者の転出超過による人口減少を抑制するため、福山ネウボラの強化や福山市民病院の周産期・小児救急医療体制の充実など、政策ターゲット(ペルソナ)の満足度向上につながる施策を展開します。また、健康寿命を延ばし、高齢者が健康で生き生きと暮らせる社会に向けて取り組みます。

5. 施策体系(新5つの挑戦)

2021年度からの5年間、次の施策体系に基づき、各施策を総合的に推進します。

新5つの挑戦

挑戦1 福山駅周辺の再生加速とグローバル都市の創造

- 福山駅周辺の玄関口機能の強化
- 戦略的な観光振興
- MICEの推進

挑戦2 希望の子育てと寛容で健やかな社会の実現

- 福山ネウボラの強化
- 人生100年時代の健康づくりと感染症対策の強化
- 安定した医療提供体制の確保
- 生活支援の充実

挑戦3 人や企業が安心・安全に活躍できる都市環境の構築

- 循環型地域経済の形成
- 多様な働き方と新たな人の流れの創出
- 農林水産業の振興
- 都市基盤の強化
- 防災・減災の推進
- 安心・安全な暮らしの確保
- 環境にやさしいまちづくり

挑戦4 新たな価値を創出する人材育成と個性光る地域振興

- 未来を切り拓く教育
- 多様性ある地域コミュニティづくり

挑戦5 歴史・文化とスポーツによる新たな体験価値の創出

- 歴史・文化の薫るまちづくり
- スポーツによるにぎわいづくり

6. 市政運営方針(ビジョンの推進に向けて)

(1) 市政運営の基本

「スピード感」「情報発信」「連携」

現場主義の徹底

＜市民の声を政策に反映＞

＜地域の特性を生かしたまちづくり＞

成果主義の徹底

＜最少の経費で最大の効果を発揮＞

(2) 市政運営の基盤づくり

① 時代の変化に対応した施策の構築

- 限られた資源を有効かつ効率的に活用し、市民ニーズの変化に的確に対応していくため、優先度、公と民の役割分担、受益と負担の公平性、費用対効果などを根拠に基づき多角的に検証し、施策・事業や公共施設等サービスの再構築を行います。

② 組織の総合力の強化

- 簡素で効率的な組織体制を基本に、時代の変化に対応した政策の立案・実施や横断的な連携を行うことができる体制を構築します。
- 多様な行政課題に果敢に挑戦し、情勢の変化に対応できる職員を育成するとともに、強化すべき分野に外部の専門人材を活用します。

③ 行政のデジタル化

- 市民の利便性の向上やサービスの充実、行政内部事務の効率化・スマート化の実現のため、デジタル技術の積極的な活用による行政のデジタル化を進めます。

④ 財源の確保

- 持続可能な財政の維持・構築に向けて、市税などの収納率の向上やネーミングライツによる既存財産を活用した収入の拡大等、多様な歳入確保策に取り組めます。

⑤ 連携

- 国・県との連携を強化し、施策効果を高めます。また、備後圏域の中核都市として、圏域内の市町や産学金官民との連携により、圏域の一体的な発展をけん引します。

⑥ 共創

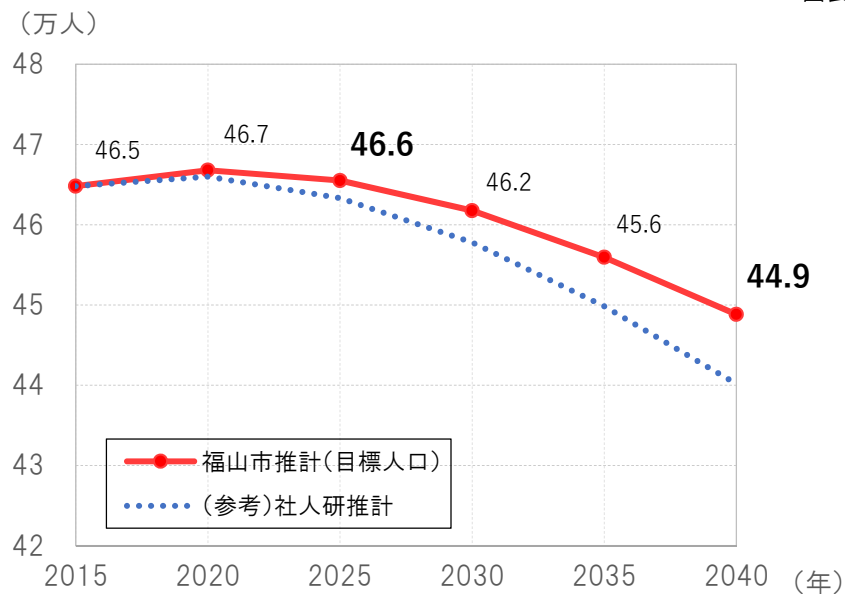
- まちづくりの主役である市民一人一人が活躍できる環境づくりや市民の声を政策立案に生かす取組を行います。
- ばらのまちづくりに代表される協働の取組を更に発展させ、多様な主体と共に創意工夫の下、新たな都市の魅力や地域の価値を創造します。

7. 2025年度までに達成すべき指標

(1) 目標人口



図表16: 将来人口推計比較

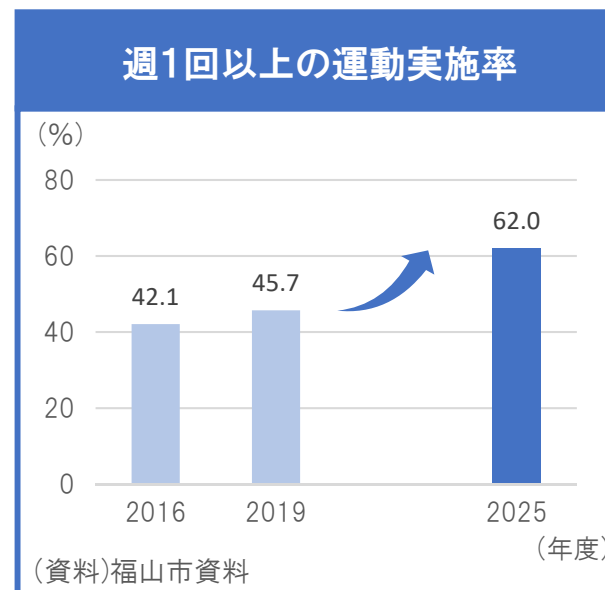
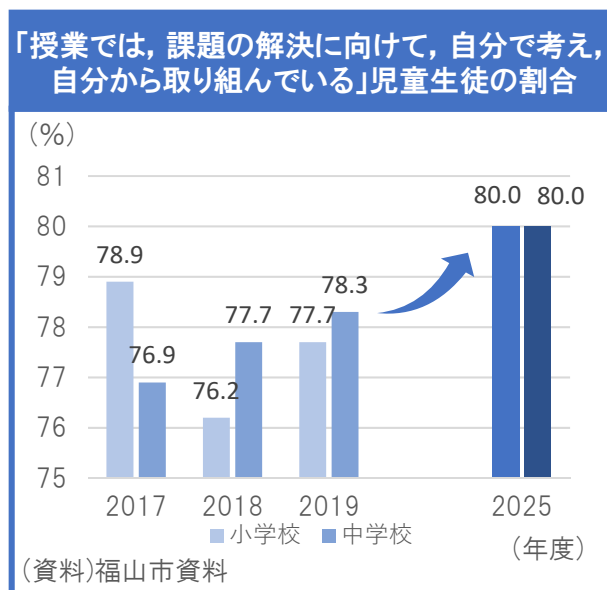
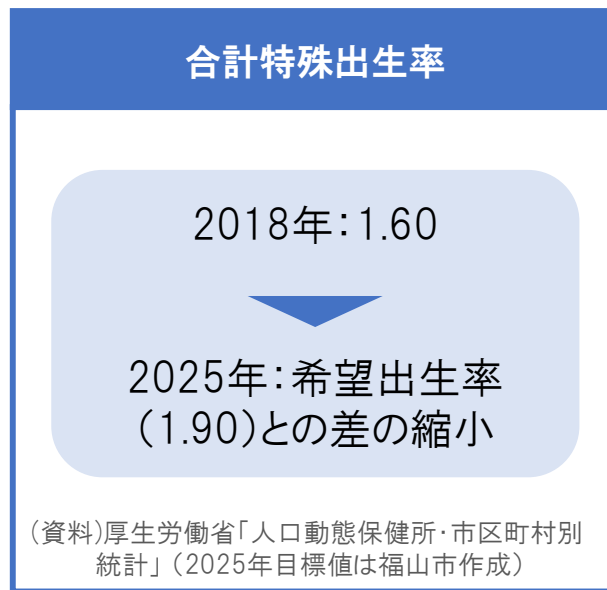


	2015年 (実績値)	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
福山市推計 (目標人口)	464,811	466,797	465,512	461,761	455,951	448,823
(参考)社人研推計	464,811	465,995	463,315	457,805	449,848	440,169

資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」
 ※ 将来推計人口は既存人口に出生率や移動率, 死亡率(生残率)を5歳階級別に乘じて算出するコホート要因法による。
 福山市推計は社人研推計で設定された移動率, 死亡率(生残率)を用い, 出生率の現状値が2040年に市民希望出生率の1.90まで上昇し, それ以降はこの水準を維持すると設定して推計。

(2) 「安心」と「希望」の都市づくりにおいて注視する指標

新5つの挑戦に掲げる目標指標のうち、特に注視すべき指標を定め、「安心」と「希望」の都市づくりの達成状況を把握する。



8. 新5つの挑戦の推進

挑戦1 福山駅周辺の再生加速とグローバル都市の創造

柱

- 1-1 福山駅周辺の玄関口機能の強化
- 1-2 戦略的な観光振興
- 1-3 MICEの推進

1-1 福山駅周辺の玄関口機能の強化

【目標とする姿】 働く・住む・にぎわいが一体となった福山駅前

【現状認識と対策】

- 再生に向けた機運醸成やエリア価値向上の取組により、新たな民間投資やまちづくりを志す人材・組織が生まれ始めています。
- 民間主導の官民連携による新たな公共空間の活用により、福山駅周辺を若者や女性など多様な人々にとって居心地良く、歩いて楽しい空間へと転換し、更なる民間投資を呼び込みます。
- 福山駅周辺の再生だけでなく、周辺地域との連携により、市域全体の経済の好循環を生み出し、更には備後圏域の一体的な発展もめざします。
- 福山城築城400年記念イベントや世界バラ会議福山大会2025の開催を見据え、世界中から集まる人々におもてなしを提供するとともに、福山と世界をつなぐ玄関口としての機能を強化します。

【目標達成のための方向性と主な取組】

未来を切り拓くプレイヤーの育成

- 人や産業、情報が交流する場の形成
- 都市再生推進法人や家守事業者など自立したまちづくり組織の設立促進
- 福山駅前と周辺地域の産業・資源をつなぐ人材の発掘・育成
- 若者や女性の就業・創業支援

居心地の良いウォーカブルな都市空間の整備

- 道路や広場、福山城公園など公共空間の新たな活用の促進
- 世界バラ会議に向けた都市空間づくり
- エリアMICE※の推進(再掲)
- 備後圏域の拠点にふさわしい交通ネットワーク機能の強化

※ MICEのための大型施設を前提とせず、市内に点在する既存の文化施設や宿泊施設などをエリアで捉えた、市内周遊型MICEのこと。

【目標指標】

伏見町・三之丸町・東桜町・元町の
従業者数

2016年:7,216人

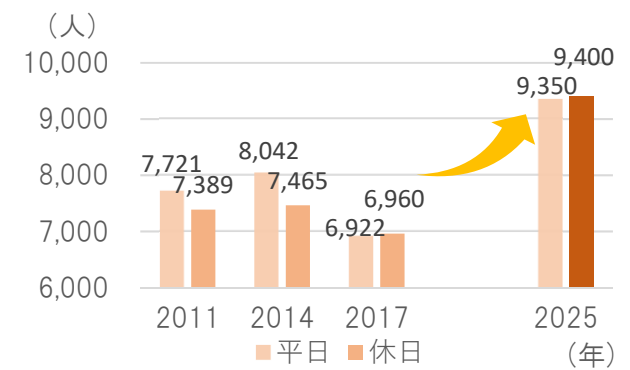
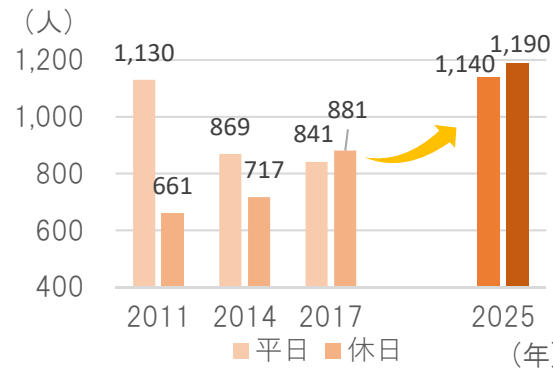
2024年:7,600人

(資料)総務省・経済産業省「経済センサスー基礎調査」,「経済センサスー活動調査」
(2024年目標値は福山市作成)

福山駅周辺の流動客数

伏見町

三之丸町



(資料)福山市・福山商工会議所「流動客調査報告書」
(2025年目標値は福山市作成)

【達成をめざすSDGs】



【にぎわいの日常化】

【主な関連計画】
・福山駅前再生ビジョン
・福山駅周辺デザイン計画

・福山駅北口広場整備基本方針
・福山市立地適正化計画

1-2 戦略的な観光振興

【目標とする姿】 魅力と特色ある観光資源により、国内外から多くの観光客を惹き付けるまち

【現状認識と対策】

- 総観光客数の増加に向け、「鞆の浦・福山城・ばら」の3大リーディング観光資源を中心とした更なる磨き上げや戦略的なプロモーションに取り組むとともに、備後圏域内の観光資源を結びつけることで、魅力ある観光地域づくりを進め、観光客の周遊にもつなげます。
- 横ばいの状態が続く観光消費額の拡大に向け、福山ならではの体験ができるコンテンツの創出のほか、開放的な環境でゆったりくつろげる滞在型観光を促進します。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、訪日外国人旅行者数は大きく落ち込んでいますが、東京オリンピック・パラリンピック競技大会、世界バラ会議福山大会2025や大阪・関西万博などを見据え、外国人観光客の誘致や受入環境の整備に取り組みます。

【目標達成のための方向性と主な取組】

観光資源の発掘・磨き上げと発信

- ・食ツーリズムなど新たな観光コンテンツの創出
- ・周遊しやすい広域観光の推進
- ・体験・滞在型観光の促進
- ・戦略的なプロモーションの推進
- ・歴史・文化資源などのユニークベニュー※¹としての活用推進(再掲)
- ・ワーケーション※²の推進

世界バラ会議に向けた外国人観光客の受入環境向上

- ・多言語対応の充実
- ・MICEのプレプログラム・ポストプログラム※³の充実(再掲)
- ・ICTサービスを活用した受入環境の充実
- ・旅ナカ※⁴の情報発信強化

※1 博物館・美術館、歴史的建造物、寺社仏閣、城郭、屋外空間(庭園・公園、商店街、公道等)などで会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場のこと。

※2 仕事(Work)と休暇(Vacation)を組み合わせた造語。本市では、仕事と休暇だけでなく、産業界や地域との交流(Communication)や、それを通じた新しいアイデアの創造(Innovation)までをめざす取組のこと。

※3 MICE開催前後で実施される行事やイベント又は自由行動としてのショッピングや娯楽などの活動のこと。

※4 旅マエ、旅ナカ、旅アトという訪日観光客の旅行シーンを三つに分ける考え方の一つ。旅ナカは、旅行者が実際に旅行先を訪れている期間のこと。

【目標指標】

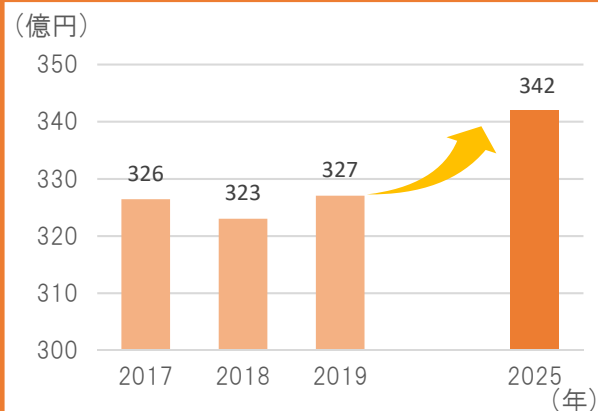
総観光客数

2019年:6,296千人

2025年:6,600千人

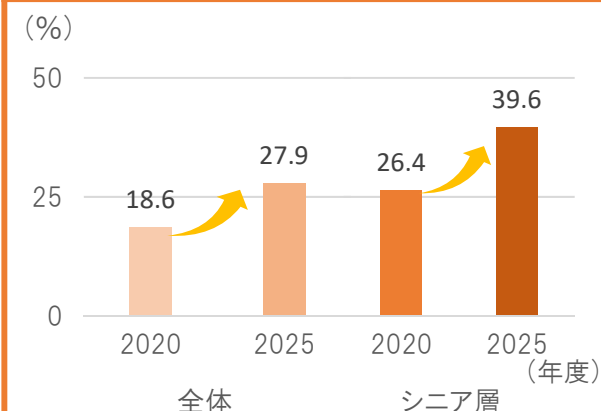
(資料)広島県「広島県観光客数の動向」
(2025年目標値は福山市作成)

観光消費額



(資料)広島県「広島県観光客数の動向」
(2025年目標値は福山市作成)

鞆の浦の関西圏認知度



(資料)福山市資料

【達成をめざすSDGs】



【主な関連計画】・第2次福山市観光振興ビジョン
・ひろしま観光立県推進基本計画

・世界バラ会議福山大会基本計画

1-3 MICEの推進

【目標とする姿】 MICEの推進により、新たなにぎわいが創出され、地域経済が活性化しているまち

【現状認識と対策】

- MICE(企業会議や大会, 研修会, 展示会, 国際会議などビジネスイベントの総称)は, 宿泊や飲食, 交通など複数の分野での経済波及効果が期待されます。そのため, 官民が一体となって積極的にMICE誘致に向けた取組を強化します。
- 本市で開催されたMICEは, 年間平均20件, スポーツ大会を含めると平均60件です。今後, 2022年の福山城築城400年記念イベントや2025年の世界バラ会議福山大会2025が予定されており, それぞれの実行委員会と連携し, 開催に向けた取組を推進します。
- MICEの誘致・開催に向け, 受入体制・インフラの整備に取り組むとともに, 市内に点在する既存の文化施設や民間施設などを活用した, 市内周遊型のエリアMICEを推進します。

【目標達成のための方向性と主な取組】

産業MICE・エリアMICEの推進

- 産業MICEネットワークの構築による誘致促進
- エリアMICE推進に向けた会場などの磨き上げ
- 歴史・文化資源などのユニークベニューとしての活用推進
- MICEのプレプログラム・ポストプログラムの充実

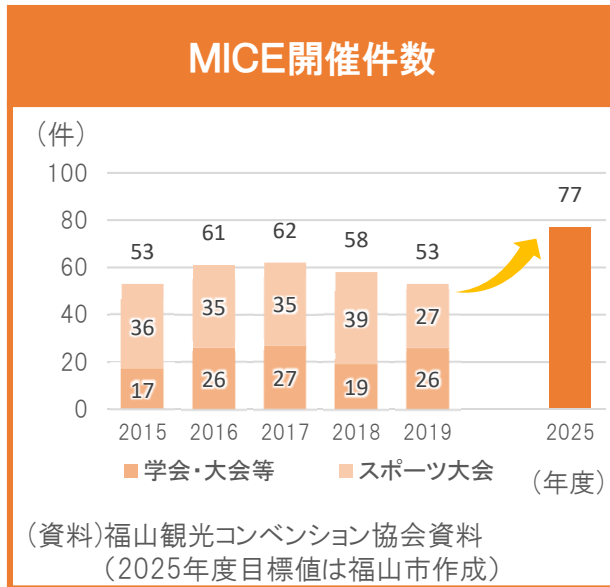
推進体制の構築・人材育成

- 官民連携によるワンストップ窓口など受入体制の構築
- 福山MICEサポーターの育成

国際MICEの誘致促進

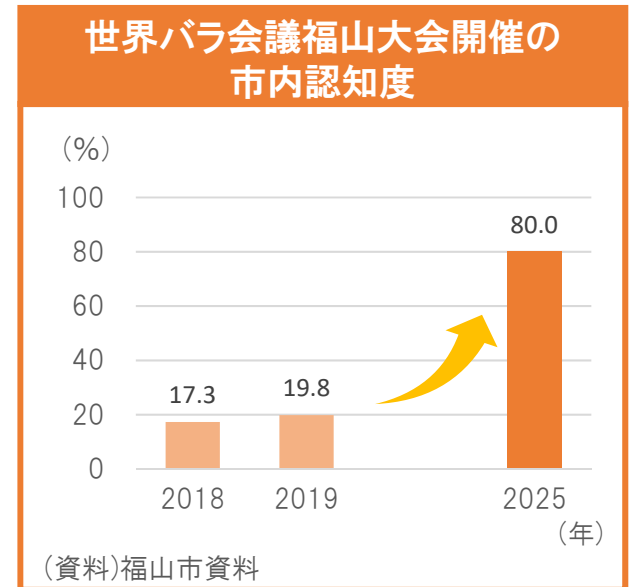
- 福山城築城400年・世界バラ会議を通じた国内外への多様な魅力の発信
- 「(仮称)ふくやま国際MICEプログラム」の開発

【目標指標】



MICE開催に関わる市民の人数

2025年度までに
MICE開催に関わる
学生・市民の人数
累計100人



【達成をめざすSDGs】



【主な関連計画】

- ・福山市MICE戦略
- ・福山城築城400年記念事業基本方針

・世界バラ会議福山大会基本計画

挑戦2 希望の子育てと寛容で健やかな社会の実現

柱

2-1 福山ネウボラの強化

2-2 人生100年時代の健康づくりと感染症対策の強化

2-3 安定した医療提供体制の確保

2-4 生活支援の充実

2-1 福山ネウボラの強化

【目標とする姿】 希望の子育てが実現し、全ての子どもたちが健やかに成長できるまち

【現状認識と対策】

- 本市の合計特殊出生率は1.6から1.7台で推移し、国や県の平均を上回っていますが、出生数は年々減少しています。
- 希望の子育てを実現するため、子育てと仕事の両立などの多様な課題に対応し、子育ての不安・負担を軽減します。
- 児童虐待の相談・通告件数は年々増加していることから、子どもを守るための切れ目のない総合的な支援を行います。
- ひとり親家庭が抱える悩みや不安を軽減し、子どもの健全育成に向けた適切な支援を行います。

【目標達成のための方向性と主な取組】

妊娠期からの切れ目のない総合的な支援体制の充実

- 産前・産後のサポート体制の充実
- 周産期・小児救急医療体制の充実(再掲)
- 相談窓口「あのね」の利便性向上
- 不育症・不妊治療への支援

子育て世代が将来の展望を描ける環境づくり

- 子どもの生きる力を育成する教育環境の整備
- 働き方改革や職場の意識改革の推進(再掲)
- 子ども未来館構想の推進(再掲)
- ライフデザイン・キャリアデザインの支援
- 子育て家庭が集える場づくり

ICTを活用した子育て支援

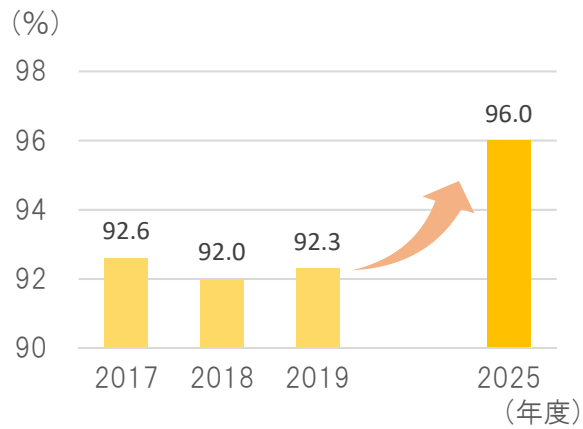
- デジタル技術を活用した保育環境整備と保育人材確保
- オンライン子育て相談の充実

援助を必要とする子どもや家庭への支援

- 子ども家庭総合支援拠点を中心とした児童虐待防止対策の充実
- 発達に課題のある子どもなどの相談・支援体制の充実
- ひとり親家庭の自立支援と子どもの貧困対策の推進

【目標指標】

「この地域で子育てをしたい
と思う親」の割合



(資料)福山市資料

父親の育児休業の取得状況

2018年度実績: 3.1%

2025年度目標: 10.0%

(資料)福山市資料

合計特殊出生率

2018年: 1.60

2025年: 希望出生率
(1.90)との差の縮小

(資料)厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」(2025年目標値は福山市作成)

【達成をめざすSDGs】



【福山ネウボラによる切れ目のない子育て支援】

【主な関連計画】・福山市ネウボラ事業計画
・ふくやま健康フクイク21いきいきプラン2018

・福山市地域福祉計画2017
・福山市男女共同参画基本計画(第4次)

・第二次福山市教育振興基本計画
・福山市障がい者プラン

2-2 人生100年時代の健康づくりと感染症対策の強化

【目標とする姿】 人生100年時代においても住み慣れた地域で健康に暮らせるまち

【現状認識と対策】

- 本市の特定健康診査の受診率や運動実施率は低いため、データを活用した意識改革や生活習慣の改善に取り組みます。
- 健康と要介護の中間の状態であるフレイルに早期に気づき、デジタル技術を活用した健康状態の見える化による最適な予防の取組を促進し、市民の健康寿命の延伸につなげます。
- 一人暮らしの高齢者を始め、高齢者のみの世帯や認知症高齢者が増加しています。住み慣れた自宅や地域で自分らしく暮らすことができるよう、医療と介護が密接に連携した切れ目のない支援体制を構築します。また、介護人材の確保・定着にも取り組みます。
- 新型コロナウイルス感染症などの健康危機に対して、平常時からの備えと健康危機が発生した場合の体制を強化することで、市民の生命と健康を守ります。

【目標達成のための方向性と主な取組】

次世代ヘルスケアの推進

- ・ 行動変容を促すデータヘルスの推進
- ・ 企業の健康経営の促進(再掲)
- ・ こころの健康づくりの推進
- ・ 医療・介護の連携強化(地域包括ケアシステムの実現)
- ・ デジタル・ロボット技術の介護現場での活用促進
- ・ 介護人材の確保・定着

福山版フレイル予防の推進

- ・ フレイル予防対策の強化
- ・ デジタル技術を活用した健康状態の見える化
- ・ 社会参加や地域貢献などの生きがいづくりの充実

新たな感染症の発生時などにおける健康危機管理体制の強化

- ・ 感染症発生時における検査・医療提供体制の強化
- ・ 感染症に関する知識の普及・啓発と予防接種の勧奨
- ・ 食品衛生の正しい知識の普及・啓発
- ・ 食品の製造・加工・調理段階における監視指導の実施

【目標指標】

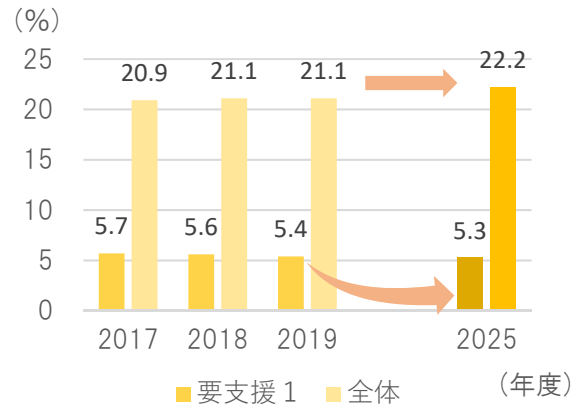
平均寿命と健康寿命の差

2017年実績	
男性	女性
1.26年	2.81年
平均寿命 80.72年	87.13年
健康寿命 79.46年	84.32年

2025年目標: 縮減

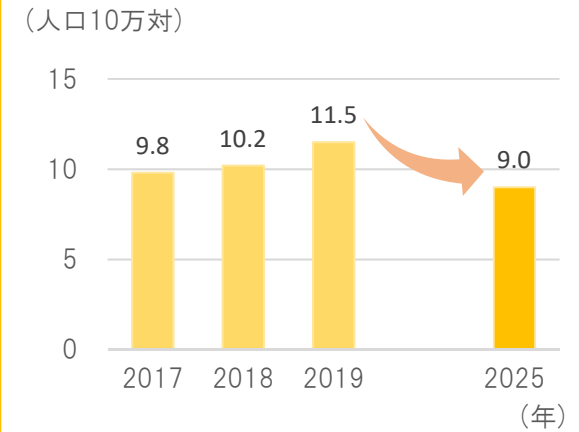
(資料)福山市資料

要介護(要支援)認定率



(資料)福山市資料

結核り患率



(資料)福山市資料

【達成をめざすSDGs】



【運動を通じた健康づくり】



【感染症への備え】

- 【主な関連計画】
- ・ふくやま健康フクイク21いきいきプラン2018
 - ・福山市高齢者保健福祉計画2021
 - ・福山市地域福祉計画2017

- ・福山市健康増進計画2018追補版 フレイル予防推進計画2020
- ・福山市新型インフルエンザ等対策行動計画
- ・福山市食品衛生監視指導計画

2-3 安定した医療提供体制の確保

【目標とする姿】 質が高く、安定した医療提供体制が確保され、住み慣れた地域で健やかに生活できるまち

【現状認識と対策】

- 福山・府中二次保健医療圏には、大学医学部がないため、医師確保は圏域外の大学からの派遣に頼らざるを得ない状況です。
- 特に、産科医師・小児科医師数が少なく、厚生労働省が示す医師偏在指標は「医師少数地域」となっています。医師としてのキャリア形成に有効な環境の整備や働き方改革などによる医療機関の魅力向上を推進し、医師の確保・定着につなげます。
- 本市は、井原・笠岡地域の急性期や救急、回復期の患者の入院先であり、分娩機能や小児救急の中心的な役割も担っています。しかしながら、周産期に係るハイリスク分娩については、倉敷市などへ搬送している状況です。
- 備後圏域の中核都市として、本市の基幹病院である福山市民病院の機能強化を進めます。

【目標達成のための方向性と主な取組】

戦略的な医療政策の検討・実施

- 周産期・小児救急医療体制の充実
- 医療人材の定着・確保に向けた大学医学部などとの連携強化

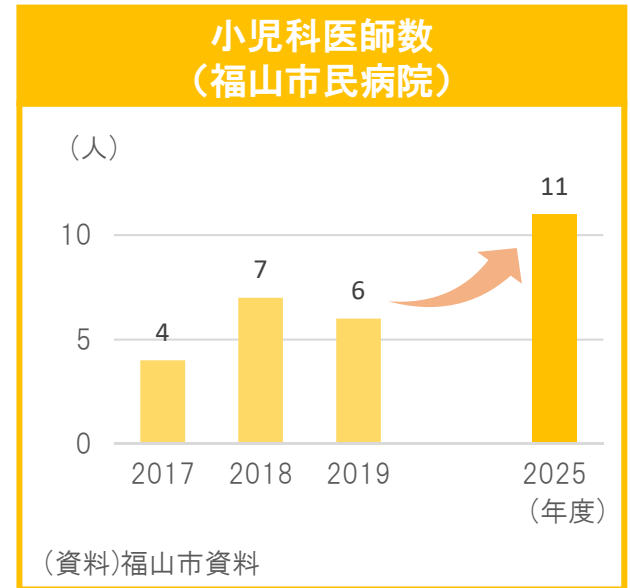
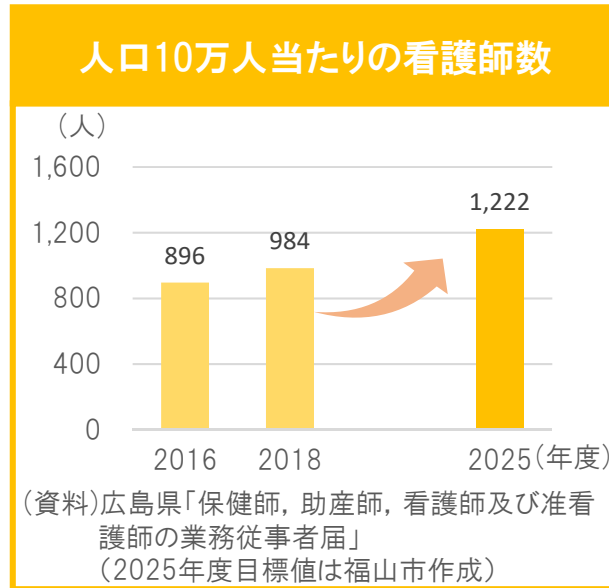
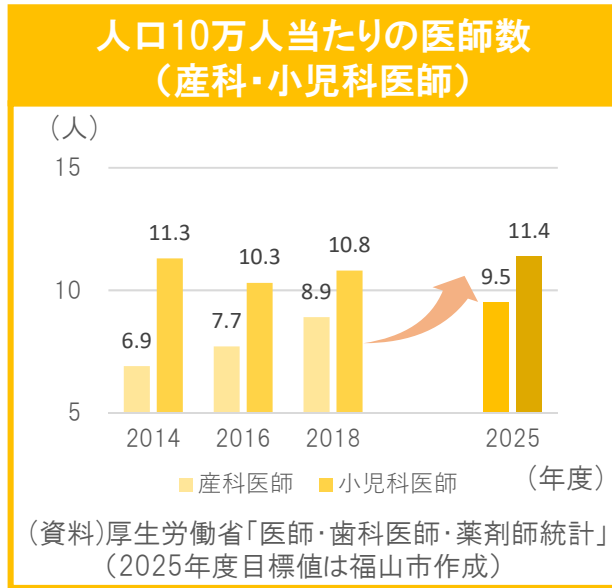
広域連携による地域医療体制の確保・充実

- 拠点病院と中規模病院などの連携による研修機能の充実
- 女性医師やシニア医師が活躍できる環境の整備
- 先端技術を活用したマンパワー補完対策などの実証実験の推進
- 地域医療を担う看護職員の確保・育成
- 初期救急医療提供体制の確保

福山市民病院の増改築整備

- 周産期・小児救急医療体制の充実(再掲)
- がん医療・救急医療・高度専門医療の機能強化

【目標指標】



【達成をめざすSDGs】



【看護師確保に向けた復職支援】



【福山市民病院の医療提供体制】

- 【主な関連計画】
- ・広島県地域医療構想
 - ・広島県保健医療計画
 - ・広島県保健医療計画別冊 医師の確保及び外来医療に係る医療提供体制の確保に関する計画
 - ・福山市民病院改革プラン

2-4 生活支援の充実

【目標とする姿】 誰もが安心して生活し、活躍できるまち

【現状認識と対策】

- 人口減少・少子高齢化が進む中で、社会保障制度の持続的な運用が求められています。そのため、各種保険制度の効果的な連携や医療費の適正化による健全運営に取り組めます。
- 「障がい者アンケート調査(2019)」によると、「障がい者に対する地域の人の理解が進んでいない・以前と変わらない」と回答した人が6割を占めていることから、誰もが支え合い、安心して暮らせる地域共生社会の実現に向けて、相互理解の促進に取り組めます。
- 同アンケートによると、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」や「相談支援の充実」も求められています。地域で安心して自立した生活を送るため、総合的な相談支援体制の強化やニーズに対応した福祉サービスの提供に取り組めます。
- 生活に困窮する市民からの相談に対して適切な就労支援などを行い、経済的自立に向けた支援に取り組めます。

【目標達成のための方向性と主な取組】

障がい者に対する理解促進と支援体制の充実

- ・ 障がい者への理解促進(地域共生社会の実現)
- ・ 相談支援体制や福祉サービスの充実など地域における生活支援体制の強化
- ・ 疾病予防・早期発見・早期治療につなげる支援体制の強化
- ・ ニーズに応じた療育・保育・教育内容の充実
- ・ デジタル技術の活用などによる障がい者の就労支援

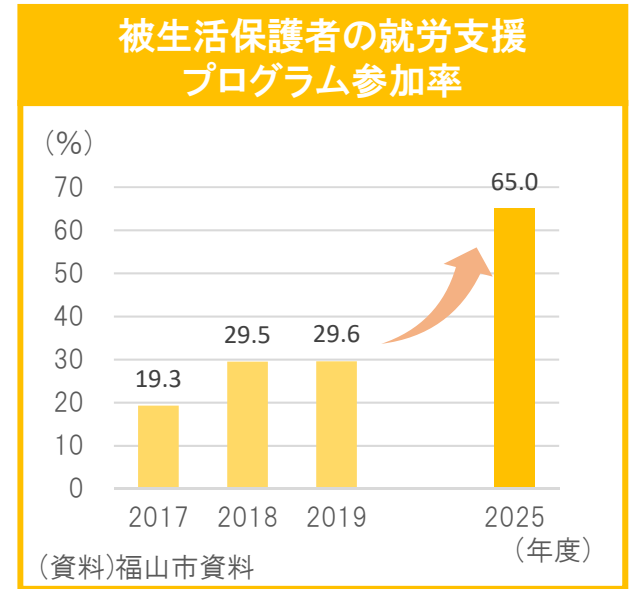
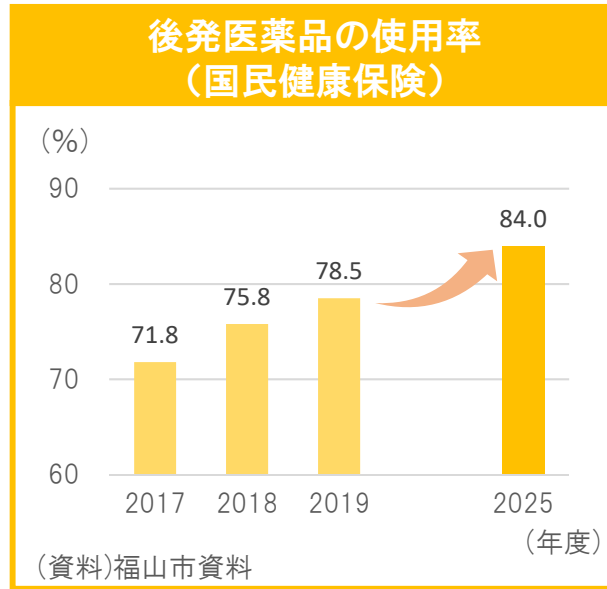
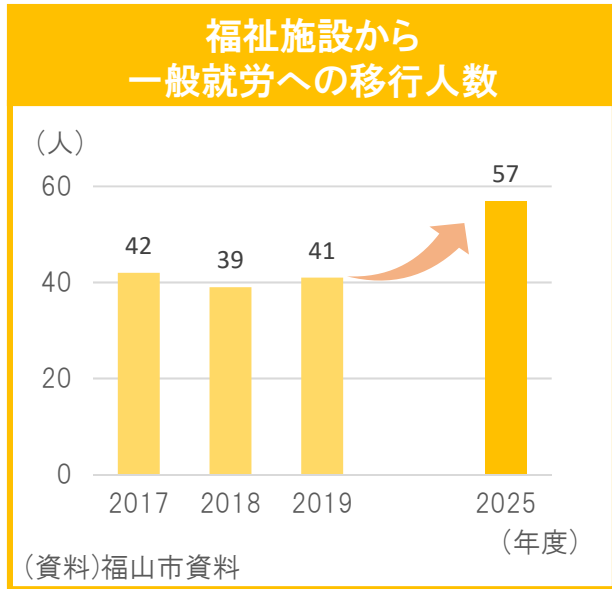
保険制度の健全な運営

- ・ 後発医薬品の使用拡大などによる医療費の適正化
- ・ 収納率向上対策の推進

自立支援の推進

- ・ 生活保護受給者や生活困窮者の自立支援の強化

【目標指標】



【達成をめざすSDGs】



【主な関連計画】

- ・福山市地域福祉計画2017
- ・福山市国民健康保険第2期データヘルス計画
第3期特定健康診査等実施計画

・福山市障がい者プラン

挑戦3 人や企業が安心・安全に活躍できる都市環境の構築

柱

3-1 循環型地域経済の形成

3-2 多様な働き方と新たな人の流れの創出

3-3 農林水産業の振興

3-4 都市基盤の強化

3-5 防災・減災の推進

3-6 安心・安全な暮らしの確保

3-7 環境にやさしいまちづくり

3-1 循環型地域経済の形成

【目標とする姿】 市内産業の生産性と付加価値が高まり、地域経済の好循環が生まれるまち

【現状認識と対策】

- 本市は、優れた技術・ノウハウを持ったオンリーワン・ナンバーワン企業が数多く立地しており、伝統産業を始め、鉄鋼業や造船などのものづくり産業を中心に様々な産業が集積しています。これらを生かして、市内に立地する企業の連携や付加価値向上のための支援を行い、市内企業の稼ぐ力を強化します。また、備後圏域内での地域経済循環の形成をめざします。
- 市内企業を取り巻く環境は、米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染症の影響による景気の先行き不透明感が高まっている状況です。デジタル化による生産性の向上や経営戦略の見直しを支援することで持続可能な経営につなげていきます。
- 地域経済を活性化するため、起業・創業支援や企業誘致に取り組みます。また、市内企業の技術やノウハウが喪失することがないよう、事業承継にも取り組むことで、適切な企業の新陳代謝を促進します。

【目標達成のための方向性と主な取組】

企業の経営力強化

- 官民連携による企業のデジタル化の推進
- 企業の危機管理体制の強化
- デジタル技術を活用するものづくり人材の育成

起業・創業支援や企業誘致の促進

- 起業・創業支援
- 事業承継支援
- 福山北産業団地第2期事業の推進(再掲)
- 成長産業などの企業誘致の促進

地域経済循環構造の形成

- 地域商社の構築
- 地域資源活用の促進

【目標指標】



【達成をめざすSDGs】



【Fuku-Bizでの相談支援】



【備中備後ジャパндеニムの海外出品】

【主な関連計画】・福山市産業振興ビジョン

3-2 多様な働き方と新たな人の流れの創出

【目標とする姿】 誰もがやりがいをもって安心して働き、活躍できるまち

【現状認識と対策】

- 市内の中小企業の多くは、人材確保を課題としていますが、有効求人倍率は職業間で大きな差があり、仕事と若者のニーズにギャップが生じています。また、生産年齢人口は今後10年で約4,500人減少すると予想されています。経済活動を持続可能なものとするため、働き方改革などによる若者の地元定着の促進や高齢者、障がい者、外国人など多様な人材の活躍を支援します。
- 今後は介護と子育てのダブルケアの問題も懸念されることから、若い世代を中心にニーズが高まる仕事と家庭の両立を支援します。
- 都市圏から地方への人の流れの受け皿となるため、ワーケーションや兼業・副業、移住による転職を推進します。

【目標達成のための方向性と主な取組】

多様な働き方による人材の確保

- 働き方改革や職場の意識改革の推進
- デジタル技術の活用によるテレワークなどの導入促進
- 兼業・副業やワーケーションなどによる高度人材等の確保
- 企業の健康経営の促進

多様な人材の活躍支援

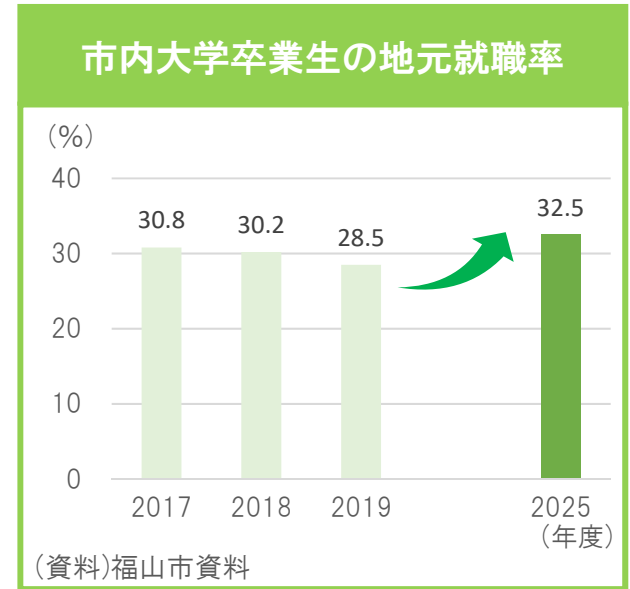
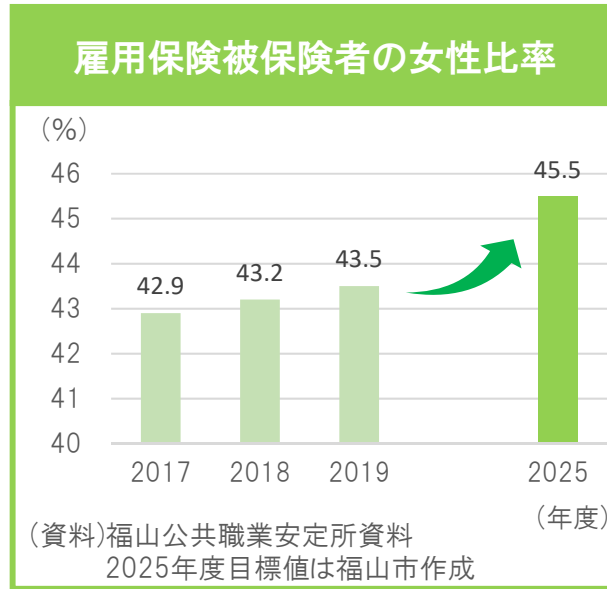
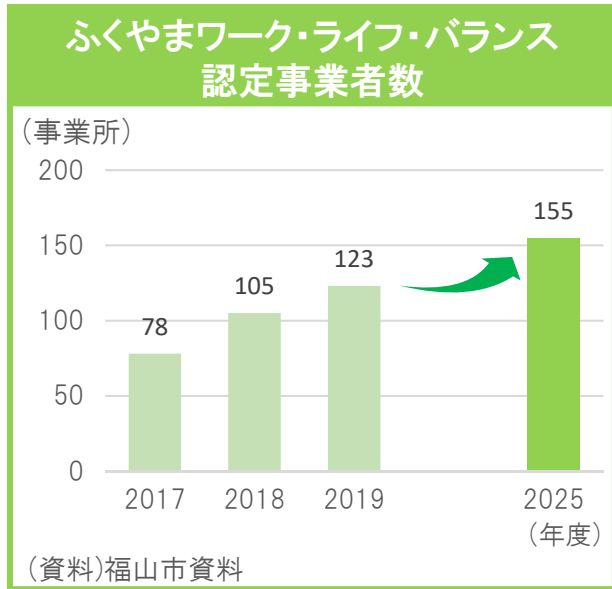
- 若者の雇用・地元定着の促進
- 女性の活躍支援
- 障がい者・高齢者の就労支援
- 外国人雇用の受入環境整備
- 就職氷河期世代の活躍支援

企業が求める人材の確保

- UIターンによる転職の支援
- リカレント教育※の推進(再掲)
- キャリア教育の推進(再掲)

※ 社会人に対して、学校教育の修了後、一旦社会に出た後に行われる教育のこと。

【目標指標】



【達成をめざすSDGs】



【テレワークの様子】

【オンラインによる企業説明会】

3-3 農林水産業の振興

【目標とする姿】 農林水産業の稼ぐ力を高め、美しく活力ある農山漁村地域が継承されるまち

【現状認識と対策】

- 担い手の高齢化や後継者の不足により、農林水産業の生産基盤が弱体化しています。持続可能な農林水産業の確立に向け、デジタル技術の活用などによる生産性の向上や担い手の育成・確保のための取組を進めます。
- 農林水産業の収益強化のため、地産地消や販路拡大、6次産業化、ブランド化による消費額の拡大に取り組みます。
- 多面的機能を有する里山・里地・里海を持続可能なものとするため、農地や森林、水産資源などを維持・保全するとともに、地域資源を活用した農山漁村地域の活性化を進めます。

【目標達成のための方向性と主な取組】

生産性の向上と担い手の育成・確保

- 経営基盤の強化支援
- スマート農業技術の導入支援
- 多様な担い手の就業支援
- 異業種企業の農業参入の促進

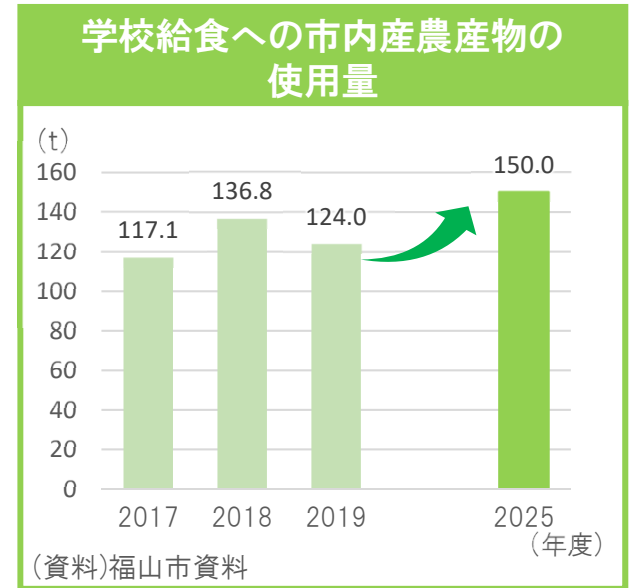
農林水産物の販路拡大とブランド化の推進

- 6次産業化による新商品の開発や販路開拓の支援
- 産直市の充実や学校給食への市内産農産物の活用
- 備後フィッシュや備後圏域のワイン等の農水産物などのブランド化

農山漁村地域の活性化

- 里山・里地・里海の保全活動の推進
- 森林整備の推進
- 耕作放棄地対策の推進
- 地域資源の魅力発信
- デジタル技術を活用した有害鳥獣対策

【目標指標】



【達成をめざすSDGs】



- 【主な関連計画】
- ・福山市農業振興ビジョン
 - ・福山市水産振興ビジョン
 - ・福山農業振興地域整備計画

- ・福山市森林整備計画
- ・第3次福山市地産地消促進計画

3-4 都市基盤の強化

【目標とする姿】 地域経済や市民生活を支える都市基盤が整備されたまち

【現状認識と対策】

- 国道2号を始めとする主要な幹線道路の慢性的な交通渋滞は、市民生活の安全性・利便性を低下させるだけでなく、経済的にも大きな損失をもたらしています。この慢性的な交通渋滞への対応に加えて、事前防災・減災対策に資するダブルネットワークの構築に向け、幹線道路網の早期整備を国・県と共に進めます。
- 国際バルク戦略港湾である福山港は、備後圏域における国際物流拠点です。地域産業の国際競争力を高めるため、福山港の機能強化を国・県と共に進めます。
- 市内外の企業の投資の受け皿として、成長産業などが集積する産業団地の造成を着実に進め、備後圏域の経済の活性化と雇用の創出につなげます。

【目標達成のための方向性と主な取組】

交流・物流ネットワーク機能の強化

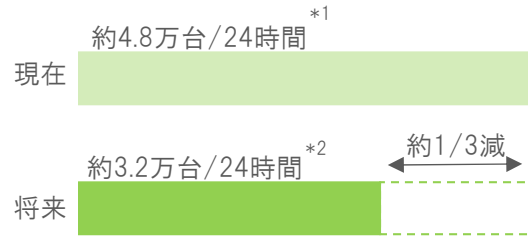
- 福山道路や福山沼隈道路、福山西環状線、瀬戸連絡線などの早期整備
- 福山道路などの未整備区間の早期事業化
- 福山港のふ頭再編改良事業による機能強化

成長産業などの受け皿整備

- 福山北産業団地第2期事業の推進

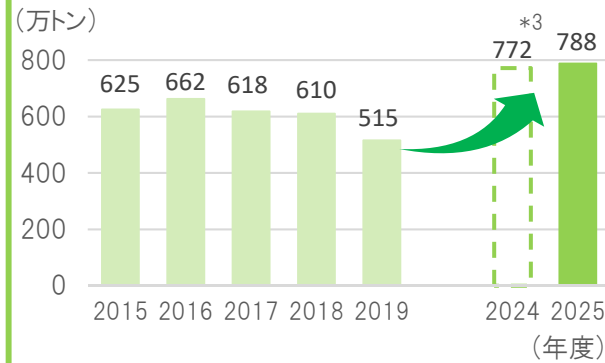
【目標指標】

国道2号交通量



(資料)国土交通省「全国道路・街路交通情勢調査」(平成27年度)、「一般国道2号 福山道路事業再評価」(平成25年)より福山市作成

福山港鋼材(バルク)輸出货量



(資料)国土交通省「福山港ふ頭再編改良事業説明資料(新規事業採択時評価)」より福山市作成

福山北産業団地第2期の造成・分譲

2023年度 造成完了

2025年までに分譲2件

- *1 福山郵便局前交差点～赤坂バイパス早戸ランプ交差点区間の平均交通量
- *2 福山道路等(事業化区間)の整備が完了した場合の並行する国道2号の将来予測交通量
- *3 2015年度実績を基準とした2024年度推計

【達成をめざすSDGs】



【国道2号の渋滞】



【福山港】

3-5 防災・減災の推進

【目標とする姿】 自然災害への備えなど危機管理が万全で、市民の防災意識が高いまち

【現状認識と対策】

- 激甚化・頻発化する豪雨・台風や切迫する大規模地震などの自然災害への備えを万全にし、市民の生命と財産を守るため、ハード・ソフト一体となった取組を強力に推進します。
- 抜本的な浸水対策を始め、ため池の安全対策や公共施設の耐震化など、災害に屈しない強靱なインフラ整備を計画的に進めていきます。
- 災害時には、公助だけでなく、自助・共助の観点も重要となるため、地域防災力の強化や市民の防災意識の変革に取り組むとともに、デジタル技術の活用などによる効率的かつ効果的な危機管理を推進します。

【目標達成のための方向性と主な取組】

抜本的な浸水対策の推進

- 河川の改修
- 河川への排水機の整備
- 雨水幹線・雨水ポンプ場の整備

災害に屈しない強靱なインフラ整備等の促進

- ため池の安全対策の推進
- 公共施設の耐震化や老朽化対策を踏まえた再構築
- 建築物の耐震化の促進
- 大規模災害に備えた道路・橋りょうなどの防災・減災対策の推進
- 市役所本庁舎の防災機能の強化
- デジタル技術を活用した効果的な災害対応

地域防災力の強化

- 防災リーダーなどの人材育成
- 自主防災組織の機能強化などによる共助の強化
- 総合防災訓練の実施による防災力の向上
- 企業の危機管理体制の強化(再掲)

迅速な避難行動につながる市民の防災意識の変革

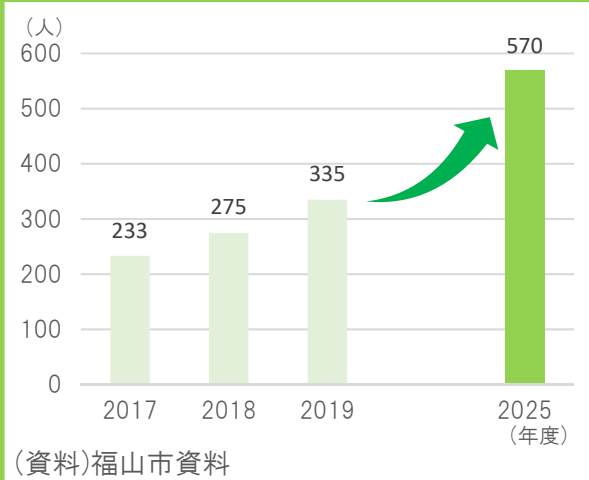
- マイタイムラインの作成などによる家庭での備えの充実
- 市民に伝わるきめ細かな防災情報の発信

【目標指標】

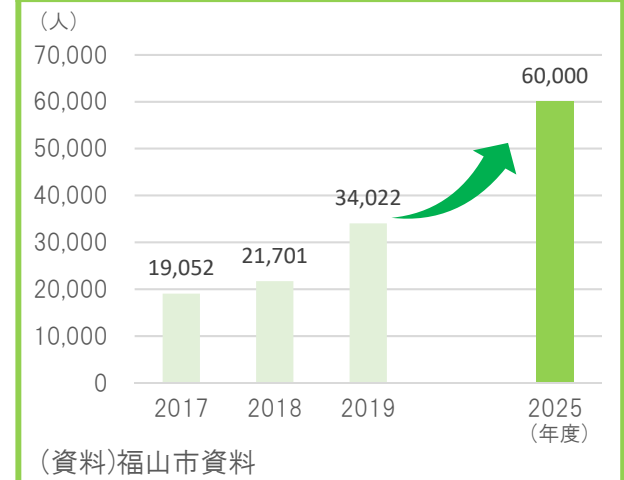
建築物の耐震化率

福山市耐震改修促進計画（第3期計画）を策定中のため、目標値については調整中

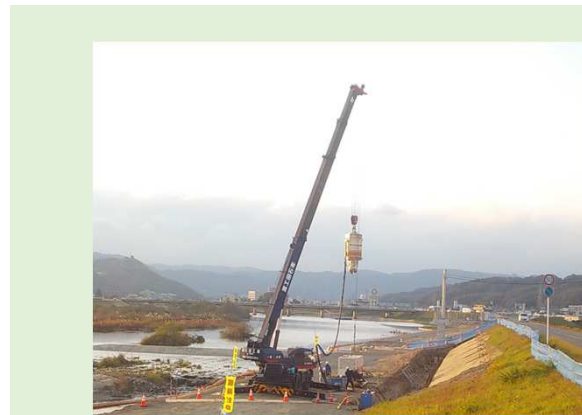
防災リーダーの登録者数



総合防災訓練の参加人数



【達成をめざすSDGs】



【芦田川堤防浸透対策】



【総合防災訓練】

- 【主な関連計画】
- ・福山市強靱化地域計画
 - ・福山市域における浸水対策協議会 行程表(ロードマップ)
 - ・福山市立学校施設耐震化推進計画

- ・福山市地域防災計画
- ・福山市耐震改修促進計画(第2期計画)

3-6 安心・安全な暮らしの確保

【目標とする姿】 誰もが安心・安全で快適に生活できる環境が確保されたまち

【現状認識と対策】

- 高齢者が巻き込まれる特殊詐欺などの犯罪や交通事故，消費者トラブルは依然として多い状況にあります。そのため，地域ぐるみの防犯活動・交通安全活動，行政による相談窓口を充実することで，正しい知識の普及・啓発に取り組みます。
- 災害や高齢化に伴う救急出場件数が増加傾向にあります。防火・防災意識や応急手当の普及啓発を図るとともに，救急及び救助の資格者を養成し，迅速かつ的確に対処できる消防，救急・救助体制の充実に取り組みます。
- 暮らしを支える移動手段を確保するため，デジタル技術を取り入れつつ，地域交通サービスを充実させます。
- インフラの老朽化対策や空き家・空き地の適正な維持管理などにより，誰もが快適に生活できる環境の整備に取り組みます。

【目標達成のための方向性と主な取組】

交通事故，消費者トラブルの未然防止

- ・ 交通安全・防犯意識の啓発
- ・ 消費者相談窓口の充実

消防，救急・救助体制の充実

- ・ 消防力の充実
- ・ 防火・防災や応急手当に関する教育の実施
- ・ 資格者の養成などによる救急・救助体制の充実

地域交通サービスの充実・スマート化

- ・ 持続可能な地域交通の維持・確保
- ・ オンデマンド交通^{※1}・MaaS^{※2}などのモビリティサービスの実装

快適な生活環境の整備

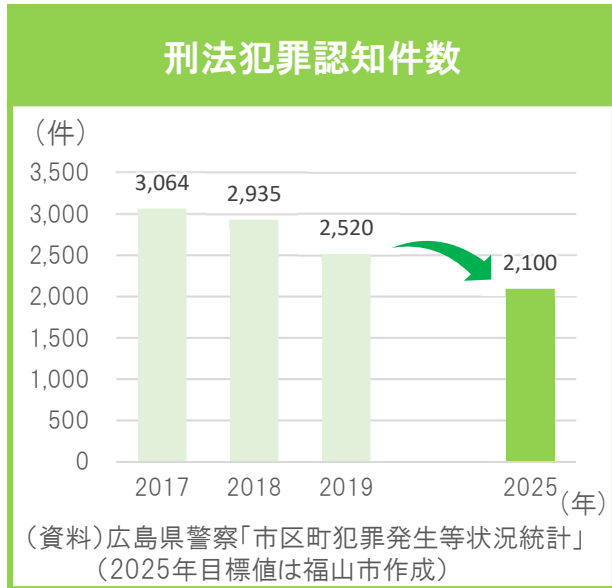
- ・ 安心・安全で快適な上下水道施設の整備
- ・ 安全な道路環境の確保
- ・ 公園・緑地の整備
- ・ 空き家・空き地対策の推進
- ・ ユニバーサルデザイン^{※3}の推進

※1 利用者の要求に応じて路線・ダイヤを柔軟に変えながら運行する公共交通システムのこと。

※2 Mobility as a Serviceの略。出発地から目的地までの移動ニーズに対して最適な移動手段を切れ目なく提供するなど，移動を単なる手段としてではなく，利用者にとっての一元的なサービスとして捉える概念のこと。

※3 年齢・性別・国籍・身体状況など人々が持つ様々な個性や違いに関わらず，誰もが利用しやすく暮らしやすい社会となるように，まちづくりやものづくり，仕組みづくりなどをしていく考え方のこと。

【目標指標】



【達成をめざすSDGs】



- 【主な関連計画】
- ・第10次福山市交通安全計画
 - ・福山・笠岡地域公共交通網形成計画
 - ・福山市空家等対策計画

- ・福山市上下水道事業中長期ビジョン(経営戦略)
- ・福山市道路総合計画

3-7 環境にやさしいまちづくり

【目標とする姿】 **低炭素・循環型社会が構築され、豊かな自然と快適な暮らしが調和したまち**

【現状認識と対策】

- 温室効果ガス排出量の増加など環境問題が国際的に深刻化している中で、ESG投資※など、企業の環境面への取組を投資の判断材料の一つとする動きが拡大しています。
- 2013年度から2016年度までの本市の温室効果ガスの排出量は横ばい傾向となっています。福山未来エナジー(株)との連携により、太陽光発電や廃棄物発電などを活用した再生可能エネルギーの地産地消を推進し、温室効果ガスの排出抑制に取り組みます。
- 3Rの推進によるごみ排出量の削減や事業活動によるばい煙などの排出抑制に取り組みます。
- 環境問題に対する市民関心度が低下傾向にあるため、次世代エネルギーパークを中心とした環境学習や環境教育を充実します。

【目標達成のための方向性と主な取組】

低炭素・循環型社会の構築

- 再生可能エネルギーの地産地消の推進
(福山未来エナジー(株)との連携)
- 廃棄物の適正処理の推進
- 3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進
- 環境に配慮した次期ごみ処理施設の整備
- 食品ロス削減の推進

地域環境の保全

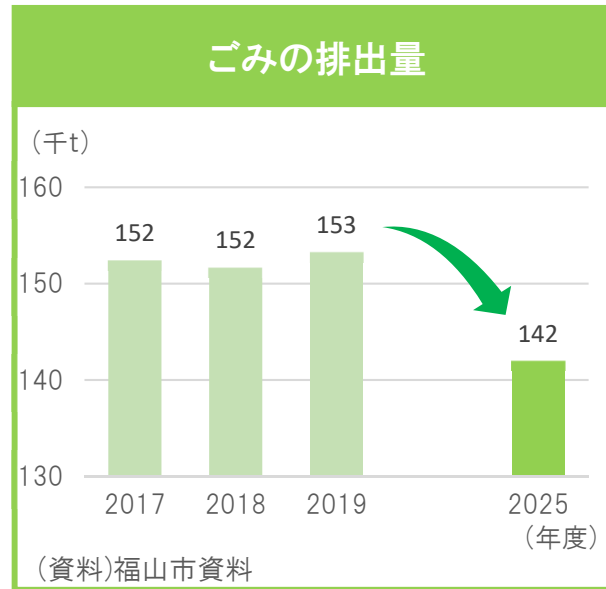
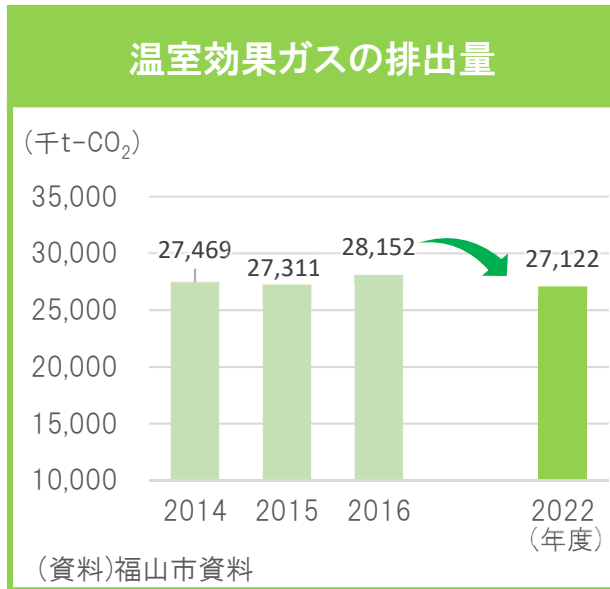
- 大気や水質などの環境保全の推進
- 里山・里地・里海の保全活動の推進(再掲)
- 森林整備の推進(再掲)

持続可能な社会を担う人づくり

- 環境について学び・触れ合う機会の充実

※ 従来の財務情報だけでなく、環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)要素も考慮した投資のこと。

【目標指標】



【達成をめざすSDGs】



【主な関連計画】 ・第二次福山市環境基本計画
・福山市一般廃棄物処理基本計画

挑戦4 新たな価値を創出する人材育成と個性光る地域振興

柱

4-1 未来を切り拓く教育

4-2 多様性ある地域コミュニティづくり

4-1 未来を切り拓く教育

【目標とする姿】 誰もが未来への希望を持ち、学び育つことができるまち

【現状認識と対策】

- 変化の激しい社会に必要な「知識を活用し、協働して新たな価値観を生み出せる力」や「学びに向かう意欲」を身に付けるため、教育のデジタル化やSDGs達成に向けた教育課程の実施等により、福山100NEN教育を推進し、「学びが面白い！」の深化による主体的・対話的な学びを実現します。
- 高等教育機関や企業との連携を強化し、デジタル化・グローバル化など新たな時代に必要となる知識・スキルを身に付けた人材の育成につなげます。
- 地域のまちづくりに関わる人材を育成するため、多様な学習機会の場として、社会教育・生涯教育の環境づくりに取り組みます。

【目標達成のための方向性と主な取組】

福山100NEN教育の推進

- GIGAスクール構想※の推進
- 子ども一人一人の個性や発達段階に応じた学びの提供
- 安心・安全に学ぶことができる教育環境の充実
- 豊かな感性や創造性を育む文化・芸術などの体験活動の推進
- 学校規模・学校配置の適正化
- キャリア教育の推進

高等教育機関や企業と連携した新たな時代に活躍する人材の育成

- 福山市立大学の機能強化
- サテライトキャンパスの設置など市外大学との連携強化
- デジタル人材の育成
- リカレント教育の推進

社会教育・生涯学習の推進

- 子ども未来館構想の推進
- 交流館や公民館、図書館などの身近な場所での学習機会の充実

※ Global and Innovation Gateway for Allの略。子どもたち一人一人に個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現をめざす取組のこと。

【目標指標】

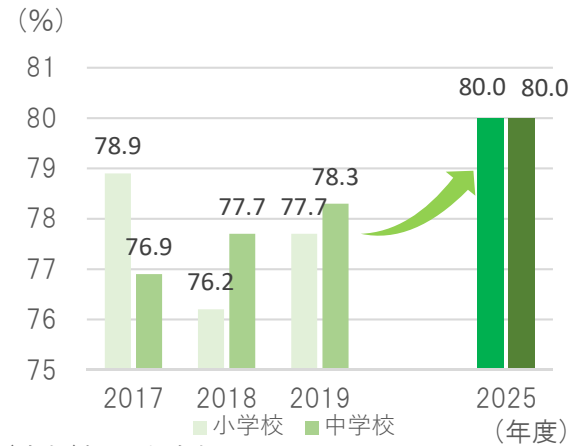
学力の伸びた児童生徒の割合

2020年度(2中学校区)
65.6%

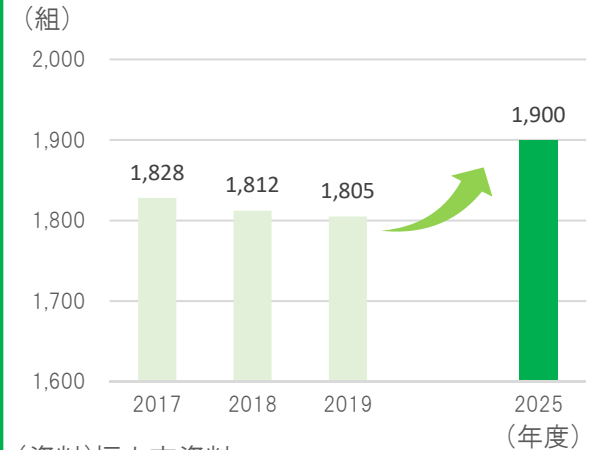
2025年度(市内全校)
75.6%

※ 市内全校の割合は2021年度から把握。
(資料)福山市資料

「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」児童生徒の割合



交流館(公民館)グループ・サークルの数



【達成をめざすSDGs】



【タブレットを活用した学習】



【企業が求める人材の育成】

- 【主な関連計画】
- ・第二次福山市教育振興基本計画
 - ・福山市立学校施設耐震化推進計画
 - ・福山市人権施策基本方針(改訂版)

- ・福山市小中一貫教育と学校教育環境に関する基本方針
- ・福山市学校規模・学校配置の適正化計画(第1要件)
- ・福山市学校施設長寿命化計画
- ・福山市国際化推進プラン

4-2 多様性ある地域コミュニティづくり

【目標とする姿】 **誰もが集い・支え合うコミュニティが形成され、地域の個性が輝くまち**

【現状認識と対策】

- 各地域の活力を高めるため、地域の資源・個性を生かした戦略的な地域づくりに取り組みます。また、ポストコロナを見据えて、地方への新たな人の流れの受け皿となる地域づくりを進めます。
- 地域の担い手不足が進む中、持続可能な地域コミュニティの形成に向けて、幅広い世代の住民や外部人材も含めた多様な主体が参画する地域づくりやデジタル技術の活用による地域活動の負担軽減に取り組みます。
- 様々な人権課題が存在していることから、市民一人一人の人権尊重の意識を高め、全ての人が大切にされ、安心して暮らすことができる地域づくりに取り組みます。
- 地域の活動拠点となる施設が点在していることから、公民館やコミュニティセンター、ふれあいプラザの機能の集約化によるまちづくりの拠点として交流館を整備するとともに、市民活動団体などの連携強化に取り組みます。

【目標達成のための方向性と主な取組】

地域の個性に応じた取組の推進

- 地域特有の資源・個性を生かした地域づくり
- 分散型社会に対応した地域づくり
- 大学連携による地域課題の解決

持続可能な地域コミュニティの形成

- 地域における新たな人材の発掘・育成
- 多様な主体の参画による地域づくり
- デジタル技術を活用したまちづくりの推進

全ての人が大切にされる人権文化が根付いたまちづくり

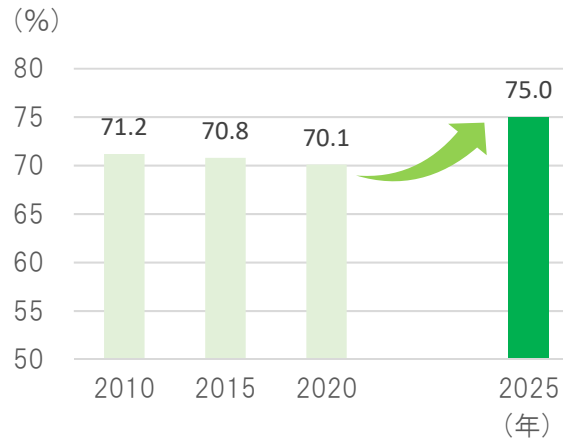
- 人権教育・人権啓発の推進
- 多文化共生、国際交流の推進

まちづくりの拠点づくり

- 地域住民の活動を支える交流館の整備
- 市民活動団体などの連携促進

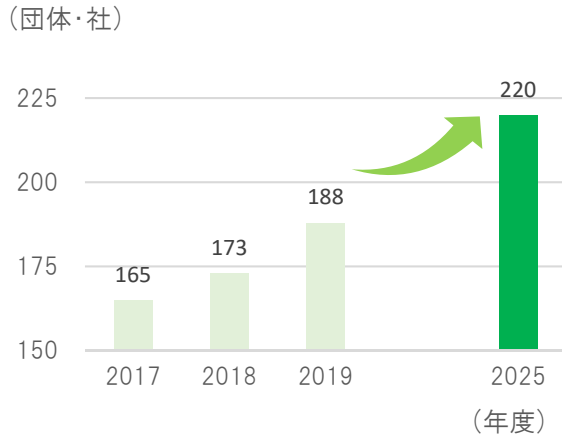
【目標指標】

まちづくりに関心がある市民の割合



(資料)福山市資料

ボランティア・NPOなどの市民活動団体数
(まちづくりサポートセンター登録団体(企業)数)



(資料)福山市資料

地域活動の拠点となる交流館数

2020年度 3か所

2025年度 12か所

【達成をめざすSDGs】



【地域課題などの議論】



【多様な主体が参加した地域活動】

挑戦5 歴史・文化とスポーツによる新たな体験価値の創出

柱

5-1 歴史・文化の薫るまちづくり

5-2 スポーツによるにぎわいづくり

5-1 歴史・文化の薫るまちづくり

【目標とする姿】 歴史・文化・芸術を大切に継承し、市民の誇りが醸成され、心豊かで多様性のあるまち

【現状認識と対策】

- 「日本遺産・重要伝統的建造物群保存地区・ユネスコ世界の記憶」の3つの評価を受けている鞆の浦を始め、2022年に築城400年を迎える福山城、国宝の明王院、特別史跡の廉塾、吉備津神社、砂留、そして地域の祭りなど、歴史・文化資源が数多くあります。
- この貴重な歴史・文化資源を行政や地域が一体となって適切に保存・活用することで、市民の誇りの醸成につなげます。また、観光資源としての魅力向上もめざし、福山ならではの文化が体験できる機会の充実や魅力発信を強化します。
- リーデンローズや美術館などを中心に文化芸術活動を推進し、心豊かで多様性のある社会をめざします。
- 鞆地区が有する歴史や伝統文化を次の世代に受け継ぐため、地域との協働により歴史的町並みを保存するとともに、快適な生活環境と活力あるまちづくりを進めます。
- 世界バラ会議福山大会2025を通じて、戦後復興のシンボルであるばらのまちづくりの次世代への継承や市内外への発信を強化します。また、全世代がばらに親しむ機会やばらの新たな魅力の共創などを通じて、ローズマインドを福山の文化として根付かせます。

【目標達成のための方向性と主な取組】

歴史・文化資源の保存と活用

- ・ 福山城博物館リニューアルなどの福山城築城400年関連事業の推進
- ・ 歴史・文化資源などのユニークベニューとしての活用推進(再掲)
- ・ 歴史・文化資源の継承・磨き上げ・発信

文化・芸術活動の振興

- ・ ばらのまち福山国際音楽祭など上質な文化・芸術に触れる機会・環境の提供

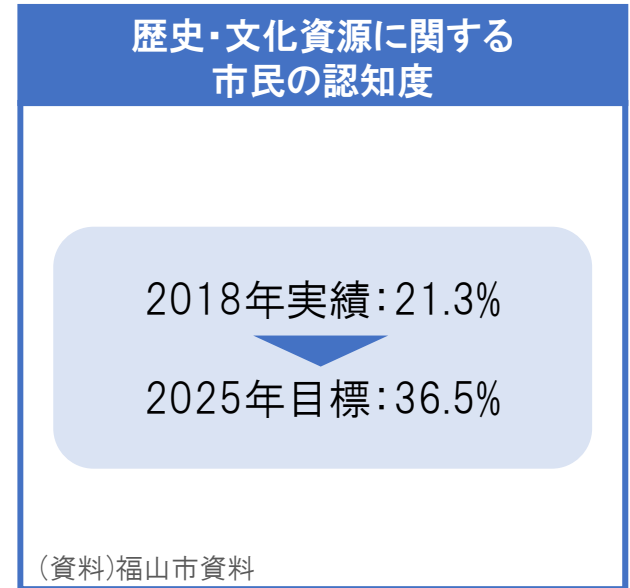
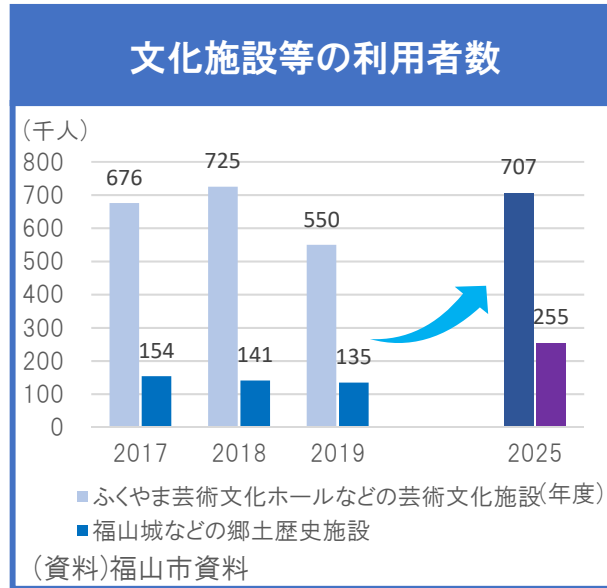
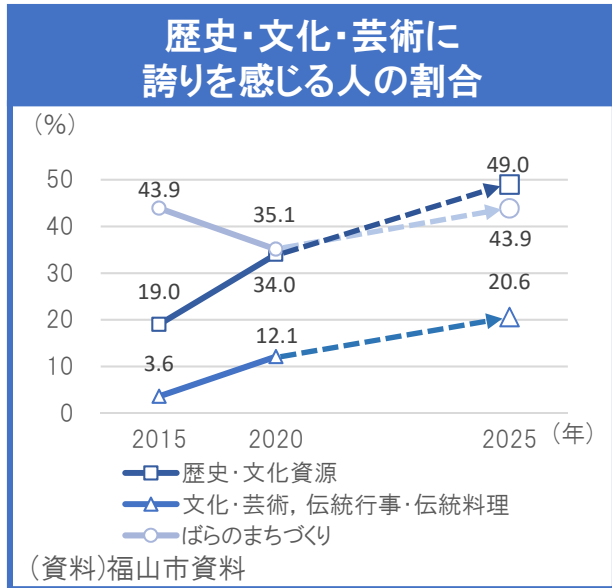
鞆のまちづくり

- ・ 町並み保存の推進
- ・ 東西交流拠点の整備などによる再生・活性化
- ・ 日本遺産の魅力発信

世界バラ会議に向けたばらのまちづくり

- ・ 幼少期からばらに親しむ機会を通じたローズマインドの醸成
- ・ 市民主体のばらのまちづくりへの支援
- ・ ばらのまちの魅力の磨き上げ・誘客プロモーションの実施

【目標指標】



【達成をめざすSDGs】



【福山城天守北側鉄板張り完成予定図】

【ばらのまち福山国際音楽祭】

【主な関連計画】

- ・福山市歴史文化基本構想
- ・福山市鞆町伝統的建造物群保存地区保存計画
- ・史跡福山城跡整備基本計画
- ・鞆まちづくりビジョン
- ・史跡福山城跡保存活用計画
- ・特別史跡廉塾ならびに菅茶山旧宅保存活用計画
- ・世界バラ会議福山大会基本計画

5-2 スポーツによるにぎわいづくり

【目標とする姿】 **誰もがスポーツを気軽に楽しみ、スポーツを通じてにぎわいが生まれるまち**

【現状認識と対策】

- 本市の週1回以上のスポーツ実施率は全国と比較して低い状況にあるため、ライフステージや個人の健康状態などに応じて気軽にスポーツを楽しめる習慣・きっかけづくりに取り組めます。
- 競技力の向上やアスリートのセカンドキャリアに向けた、指導者の養成と確保に取り組めます。
- プロスポーツなど市民がスポーツ観戦を楽しめる環境づくりが求められており、「新たな日常」に対応したイベントの誘致・開催を推進する必要があります。
- 市内には老朽化したスポーツ施設が多くあるため、民間企業のノウハウも取り入れた施設の再編・整備や管理・運営により、魅力ある施設を提供します。

【目標達成のための方向性と主な取組】

ライフステージに応じたスポーツの実施促進

- ・ 情報発信の強化によるスポーツのきっかけづくり
- ・ 企業などと連携したスポーツの促進
- ・ スポーツによる健康づくり

ジュニア世代を中心とした競技力の向上

- ・ デジタル技術・データの活用などの普及による選手・指導者のスキルアップ
- ・ プロ選手などトップレベルのプレーに触れる機会の創出

プロスポーツ大会の誘致などによるにぎわいの創出

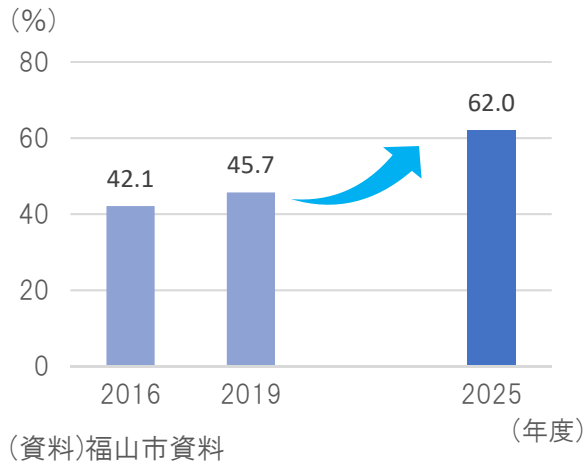
- ・ プロスポーツ大会などの誘致
- ・ 子育て世帯のスポーツ参加促進

魅力的なスポーツ拠点の創出

- ・ 拠点化や長寿命化などスポーツ施設の再編
- ・ 民間企業のノウハウを取り入れた施設の設置・管理・運営

【目標指標】

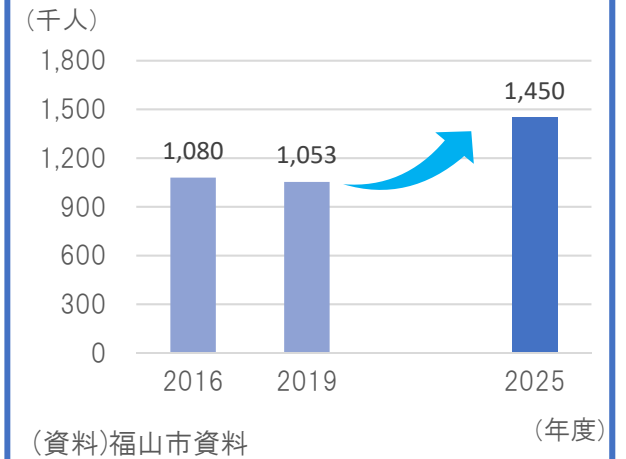
週1回以上のスポーツ実施率



スポーツ施設の再編

2025年度までに
備後圏域の拠点となる
庭球場・水泳場を整備

市スポーツ施設延べ利用者数



【達成をめざすSDGs】



【スポーツによるにぎわいの創出】

【主な関連計画】 ・福山市スポーツ推進計画
・福山市スポーツ施設再編方針(庭球場・水泳場)

・福山市社会体育施設基本計画

福山市民憲章

私たちは 恵まれた自然の中に育った 福山の市民です
私たちの福山市は たくましい市民の不屈の精神によって築かれ
大きく発展しつづけている希望の町です
私たちは 福山市民であることに誇りと責任をもち お互いのしあわせをねがい
よい市民となるために市民憲章を定め 心のよりどころとします

- 1 心に太陽をもち 胸をはって元気に働きましょう
- 1 小さな親切を 勇気をもって行いましょう
- 1 きまりを守り よい習慣をつくりましょう
- 1 子どもたちのために 明るい家庭と美しい町をつくりましょう
- 1 文化を育て 健康で平和な社会を築きましょう
- 1 人権を尊重し 差別のない人間関係をつくりましょう

制定 1966年(昭和41年)11月3日 改定 1983年(昭和58年)4月1日

市章



制定 1917年(大正6年)7月1日